

平成 25 年度
足立区桑袋ビオトープ公園解説活動報告書

(株) 自然教育研究センター

目 次

I. 平成 25 年度の活動

| | |
|------------------------------------|----|
| 長期目標 | 1 |
| 中期目標 | 2 |
| 1) 平成 25 年度の重点的な取り組み | 3 |
| 2) 来館者数と対応者数の動向 | 4 |
| ①来館者数と対応者数の推移 | 4 |
| ②来館者アンケート結果（来館者モニタリング）..... | 6 |
| 3) インタープリテーション業務 | 10 |
| ①インタープリテーションの方針 | 10 |
| ②具体的なインタープリテーション活動 | 10 |
| ③インフォメーション、レンジャートーク..... | 11 |
| ④導入型プログラム、発展型プログラム、その他のプログラム | 12 |
| ⑤特別企画展示「消えゆく足立の生きもの展」 | 25 |
| ⑥団体対応 | 26 |
| ⑦展示（館内・館外）..... | 30 |
| ⑧図書コーナー | 33 |
| ⑨教材開発（ワークシート、スライドなど）..... | 33 |
| 4) 区民協働型運営の展開 | 35 |
| ①区民協働型運営の概要 | 35 |
| ②公園管理ボランティアの活動とその成果 | 36 |
| ③ビオトープ公園サポーター制度 | 38 |
| ④提案型ボランティア制度 | 38 |
| ⑤ビオトープ公園ジュニアレンジャー | 39 |
| ⑥飛び込み型環境管理ボランティア | 41 |
| 5) 環境管理業務 | 42 |
| ①ビオトープの基本概念 | 42 |
| ②当公園における環境管理の考え方 | 42 |
| ③実際の活動 | 43 |
| 6) 広報活動 | 47 |

長期目標

「桑袋ビオトープ公園を拠点とした持続可能な地域づくり」

公園の生物多様性について、区民が主体性をもって学び守る公園にします。そのことを通じて、公園内だけではなく、その地域全体が、自然と共生する持続可能な環境になることを目指します。

①区民が育てる公園、公園と育つ地域と人

ビオトープ公園で育った公園ボランティアや子どもなどが、さまざまな地域の緑地保全活動の担い手になっています。

②子どもから高齢者までの学びと充実、安らぎの場

公園内では、地域住民の目が行き届き、子どもから高齢者までの誰もが安心して、遊び、学ぶことができます。

③足立の生態系を守る情報拠点

地域の生物多様性保全に関わるノウハウや情報が領域を超えて集積・発信されています。

④全国区で有名な公園

公園での取り組みが広域で評価されて、ビオトープ公園が足立区民の誇りになっています。

中期目標

「多様な区民協働形態で実現する 積極的に活用される都市型ビオトープの管理運営」

長期目標を実現するために、各業務に3年をめどとした中期的な目標を立てて遂行していきます。現在の中期目標は平成25年度に設定し、目標年度を平成27年度に定めます。

① いつでも自然の魅力を体験できる集客力のある自然体験の場づくり

魅力的な自然体験プログラムを数多く実施することで、区民が当公園に足を運ぶきっかけにします。イベントなどで自然に触れ、地域の自然を守りたいと感じてもらえる機会を多く創出します。

② 都市型ビオトープの先駆的管理方法の検討と推進

ビオトープの管理を体験できるプログラムを多く用意し、都市の中でのビオトープ管理の必要性を区民に伝えます。また、新しく取り組む環境管理の手法も区民との協働で進めます。

③ 次世代にまでつなげる区民協働運営と、地域関連施設・団体との連携の強化

対象年齢、内容、頻度などが異なる様々な区民協働活動を用意することで、気軽に参加したい人から、しっかり公園に関わりたい人まで、多くの区民が関わることのできる仕組みを作ります。

④ 新たな広報手段の開拓と公園の魅力を効率的に伝える広報

イベント情報や自然の見所情報など、来園のきっかけとなるような情報が区民に効率的に届くように、これまでの広報手段だけでなく、新しい広報媒体も積極的に使いながら広報活動を行います。

⑤ 教育訓練の徹底によるリスクマネジメントの実践

様々な区民が公園に関わるようになったときに、安心して園内での活動が行えるように、日常的なリスクマネジメントと解説員やボランティアへの安全教育を行います。

1) 平成 25 年度の重点的な取り組み

①自然体験プログラムを全ての休日に実施

1 年間を通じて、年末年始を除く全ての日曜日と祝日（計 65 日）に従来の導入型プログラム、発展型プログラムと、新規事業となる自然のあそび屋台のいずれかの自然体験プログラムを実施しました。これにより、「いつでも自然体験のできる公園」としてのイメージが定着し、来館者の増加につながることができました。

②生物園と連携した特別展示の開催

9 月から開催した特別展示「消えゆく足立の生きもの展」の中で、足立区では見られなくなった水生生物の生体展示を、足立区生物園から一時的に借り受けて展示を行いました。これにより館内の展示の魅力増加を図るとともに、8 月 26 日より一時閉園する予定の生物園の利用者の受け皿として桑袋ビオトープ公園が機能し、来館者の増加につながることができました。

③ジオレンジャー登録者数の増加

団体対応で来園した未就学児、小中学生をレンジャー候補生として登録する仕組みを実施しました。同時にレンジャーチケットを配付し、それを持って再来園するとレンジャーとして正式に登録されるようにしました。これによりジオレンジャー活動のインフォメーション機能の充実と、来館者数増、ジオレンジャー登録者数の増加につながることができました。

2) 来館者数と対応者数の動向

①来館者数と対応者数の推移

今年度の延べ来館者数は 35,147 人でした（表-1）。弊社が目標としていた 33,000 人／年に対しては約 107%の達成率でした。昨年度に引き続き、目標来館者数を上回る人数の利用者にご来館いただいております。

開園から 8 年が経過し、徐々に公園の知名度は上がってきていますが、現状でもまだ公園を知らない区民、知っていても足を運んだことのない区民も多いと考えられるため、今後はビオトープ的な環境管理を進めると同時に、区民のニーズに合わせたプログラムの実施や自然体験の場を提供すると共に、それらを積極的な広報活動によりアピールすることで公園の認知度を高めていきたいと考えています。

表-1 来館者数および対応者数の月別推移

| 年度 | | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 |
|--------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|-------|
| 平成25年度 | 入館者数 | 大人 | 545 | 1521 | 2399 | 1363 | 1037 | 1335 | 770 | 1235 | 594 | 542 | 474 | 637 |
| | 子ども | 1141 | 2106 | 3958 | 2663 | 1722 | 2457 | 1589 | 2575 | 1100 | 1119 | 1100 | 1165 | |
| | 計 | 1686 | 3627 | 6357 | 4026 | 2759 | 3792 | 2359 | 3810 | 1694 | 1661 | 1574 | 1802 | 35147 |
| 対応者数 | 大人 | 617 | 1360 | 1964 | 1006 | 838 | 987 | 613 | 848 | 442 | 487 | 360 | 619 | |
| | 子ども | 1225 | 1899 | 2972 | 1910 | 1685 | 1952 | 1229 | 1791 | 1077 | 899 | 846 | 1385 | |
| | 計 | 1842 | 3259 | 4936 | 2916 | 2523 | 2939 | 1842 | 2639 | 1519 | 1386 | 1206 | 2004 | 29011 |
| 平成24年度 | 入館者数 | 大人 | 1011 | 1109 | 1767 | 1293 | 1081 | 997 | 1239 | 830 | 258 | 341 | 367 | 713 |
| | 子ども | 1632 | 2097 | 3168 | 2860 | 2452 | 2186 | 2211 | 2060 | 518 | 644 | 881 | 1080 | |
| | 計 | 2643 | 3206 | 4935 | 4153 | 3533 | 3183 | 3450 | 2890 | 776 | 985 | 1248 | 1793 | 32795 |
| 対応者数 | 大人 | 814 | 965 | 1601 | 1200 | 974 | 879 | 1180 | 798 | 238 | 395 | 327 | 763 | |
| | 子ども | 1718 | 2070 | 2770 | 2370 | 2589 | 1883 | 2117 | 1861 | 691 | 918 | 847 | 1185 | |
| | 計 | 2532 | 3035 | 4371 | 3570 | 3563 | 2762 | 3297 | 2659 | 929 | 1313 | 1174 | 1948 | 31153 |
| 平成23年度 | 入館者数 | 大人 | 454 | 1058 | 1640 | 1127 | 914 | 796 | 904 | 856 | 503 | 364 | 502 | 682 |
| | 子ども | 509 | 1463 | 2892 | 2647 | 1774 | 1480 | 1349 | 1710 | 821 | 517 | 838 | 1255 | |
| | 計 | 963 | 2521 | 4532 | 3774 | 2688 | 2276 | 2253 | 2566 | 1324 | 881 | 1340 | 1937 | 27055 |
| 対応者数 | 大人 | 682 | 926 | 1511 | 1080 | 845 | 646 | 770 | 896 | 543 | 395 | 480 | 735 | |
| | 子ども | 719 | 1475 | 2473 | 2344 | 1799 | 1281 | 1365 | 1522 | 1025 | 802 | 844 | 1395 | |
| | 計 | 1401 | 2401 | 3984 | 3424 | 2644 | 1927 | 2135 | 2418 | 1568 | 1197 | 1324 | 2130 | 26553 |

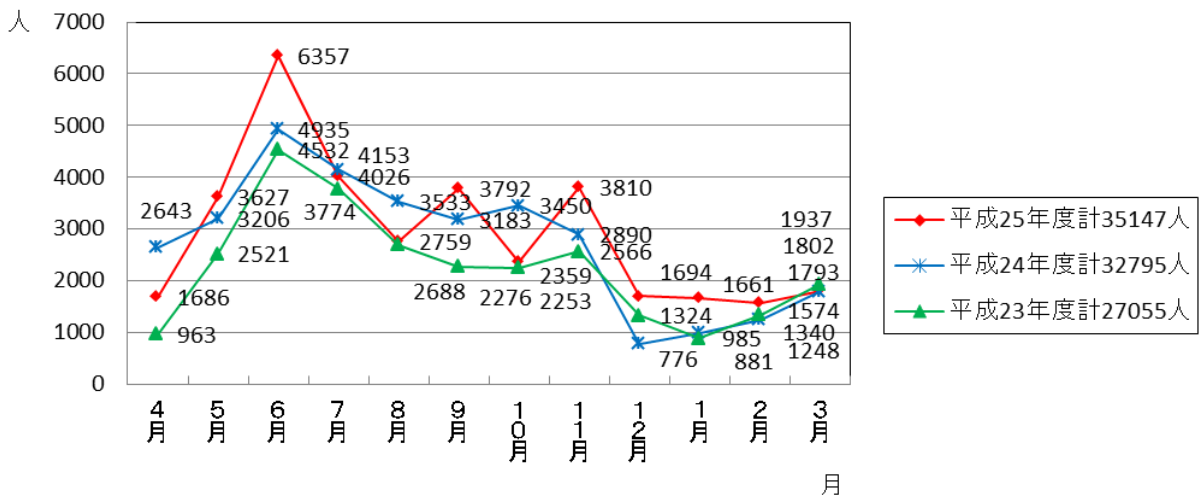


図-1 来館者数の月別推移 経年変化グラフ

表一 2 対応者数の詳細

| 月 | 対応者数 | | | インフォメーション | | | レンジャートーク | | | プログラム | | | | 団体利用 | | | 区民協働型事業 | | | |
|--------|-------|-------|-------|-----------|------|------|----------|------|-------|-------|------|------|------|------|------|------|---------|----|-----|-----|
| | 大人 | 子ども | 合計 | 大人 | 子ども | 合計 | 大人 | 子ども | 合計 | 回数 | 大人 | 子ども | 合計 | 回数 | 大人 | 子ども | 合計 | 回数 | 大人 | 合計 |
| 4 | 617 | 1225 | 1842 | 112 | 163 | 275 | 323 | 541 | 864 | 81 | 139 | 484 | 623 | 3 | 13 | 37 | 50 | 9 | 30 | 30 |
| 5 | 1360 | 1899 | 3259 | 202 | 267 | 469 | 733 | 820 | 1553 | 94 | 267 | 703 | 970 | 17 | 137 | 109 | 246 | 5 | 21 | 21 |
| 6 | 1964 | 2972 | 4936 | 118 | 142 | 260 | 471 | 645 | 1116 | 90 | 276 | 940 | 1216 | 11 | 1077 | 1245 | 2322 | 7 | 22 | 22 |
| 7 | 1006 | 1910 | 2916 | 90 | 140 | 230 | 432 | 621 | 1053 | 114 | 333 | 1022 | 1355 | 14 | 133 | 127 | 260 | 7 | 18 | 18 |
| 8 | 838 | 1685 | 2523 | 100 | 131 | 231 | 430 | 662 | 1092 | 136 | 234 | 777 | 1011 | 7 | 55 | 115 | 170 | 7 | 19 | 19 |
| 9 | 987 | 1952 | 2939 | 99 | 129 | 228 | 256 | 406 | 662 | 90 | 181 | 690 | 871 | 12 | 428 | 727 | 1155 | 6 | 23 | 23 |
| 10 | 613 | 1229 | 1842 | 71 | 95 | 166 | 388 | 377 | 765 | 94 | 107 | 519 | 626 | 8 | 26 | 238 | 264 | 6 | 21 | 21 |
| 11 | 848 | 1791 | 2639 | 58 | 87 | 145 | 348 | 395 | 743 | 96 | 80 | 471 | 551 | 21 | 343 | 838 | 1181 | 6 | 19 | 19 |
| 12 | 442 | 1077 | 1519 | 55 | 92 | 147 | 255 | 342 | 597 | 86 | 47 | 290 | 337 | 14 | 67 | 353 | 420 | 5 | 18 | 18 |
| 1 | 487 | 899 | 1386 | 59 | 80 | 139 | 360 | 338 | 698 | 82 | 26 | 267 | 293 | 4 | 16 | 214 | 230 | 7 | 26 | 26 |
| 2 | 360 | 846 | 1206 | 52 | 73 | 125 | 232 | 343 | 575 | 85 | 42 | 279 | 321 | 7 | 22 | 151 | 173 | 4 | 12 | 12 |
| 3 | 619 | 1385 | 2004 | 90 | 133 | 223 | 398 | 686 | 1084 | 118 | 66 | 481 | 547 | 6 | 46 | 78 | 124 | 6 | 19 | 19 |
| 合計 | 10141 | 18870 | 29011 | 1106 | 1532 | 2638 | 4626 | 6176 | 10802 | 1166 | 1798 | 6923 | 8721 | 124 | 2363 | 4232 | 6595 | 75 | 248 | 248 |
| 平成24年度 | 10134 | 21019 | 31153 | 1693 | 2607 | 4300 | 4160 | 7117 | 11277 | 1202 | 1735 | 7159 | 8894 | 129 | 2256 | 4136 | 6392 | 76 | 290 | 290 |
| 平成23年度 | 9509 | 17044 | 26553 | 1998 | 2463 | 4461 | 4380 | 6585 | 10965 | 826 | 1491 | 5352 | 6843 | 77 | 1357 | 2644 | 4001 | 85 | 283 | 283 |

② 来館者アンケート結果（来館者モニタリング）

館内に自由記入形式のアンケートを設置し、随時来館者が記入できるようにしました。1年間でアンケートとして回収したもののうち、マイナス面での指摘は1件だけに留まり、その他は全て当公園とあやせ川清流館を評価する声でした。

特に多かったのは、楽しかった、という声でした。具体的には「解説員から色々と教えてもらった」「イベントが楽しかった」というような、解説員が常駐していることに対しての好意的な声が多くありました。他にもザリガニが釣れたことに対しての喜びや、クラフトなどがいつでもできることに対しての声も多くありました。ご年配の方からは「昔を思い出した」というような声もあり、足立の昔の自然を再現する、という当公園のコンセプトも評価していただけていることが分かりました。

これらのことから当公園に関しては、ビオトープという豊かな自然だけに留まらず、自然体験の場として広く認知されてきていることが分かりました。

今後も自由形式のアンケートを継続し、区民のニーズを把握しながらよりよい公園作りにつなげていきます。

○4月回収分

- ・ぼくが桑袋ビオトープ公園に来て一番楽しかったことは、カエルのぼうけんすごろくです。オナモミダーツもやりました。でも全部楽しかったです。

○5月回収分

- ・こういう施設が足立区にあって、とってもよかった。うれしいです。
- ・カエルたちのぼうけんをして、カエルの気持ちになると、とっても苦労して、大変なんだなあと思いました。あと、自然のことなど、輪投げなどを楽しんだりして、とっても楽しかった！また、今度寄ってみたい。
- ・初めて来た桑袋ビオトープ公園。すごく楽しく、色々教えてくれて楽しかったです。カエルたちのぼうけんで、カエルだって大変なんだなーっと思いました。カエルたちのぼうけん、すごくおもしろかったです。ハスの花の花托をさわったとき、ハチの巣に似ていておもしろかったです。ありがとうございました。
- ・いろいろな虫を知ったし、たくさん幼虫や生きものと出会えて楽しかった。
- ・おもしろい虫がいて楽しかったです。特にザリガニ釣りが楽しかったです。
- ・初記録だよったー。トノサマバッタ。
- ・とにかく公園寄りなので寄りたくなりました。
- ・楽しかった！
- ・楽しかったです。また行きたいです。ザリガニ5匹以上釣れてよかったです。
- ・虫がいっぱいいて楽しい！
- ・初めて1匹ザリガニが釣れてよかったです。
- ・おもしろい虫のことがいっぱい知れて楽しい。
- ・ザリガニのメス1匹釣れた。
- ・今回は2度目なので、わくわくしてました。

○6月回収分

- ・いろいろな生きものが見られて楽しかったです。ありがとうございました。
- ・ビオトープではすごろくがとても楽しかったです。いろいろな小さい生きものがとてもかわいかったです。また行きたいです。ありがとうございました。
- ・いろいろな生きもので1番いそうなのがザリガニです。今度来た時にいっぱいザリガニを釣りたいです。
- ・お花を潰して作業しました。

○7月回収分

- ・ザリガニ釣りをして、7匹もザリガニが釣れてうれしい。
- ・来てよかった。とても楽しかった。
- ・はじめて知った魚の名前があったので、勉強になりました。また遊びに来たいです。
- ・みんなのためにイベントを考えてくれてありがとうございました。7月15日にイベントを用意してくれてありがとうございました。
- ・楽しかった。(2件)
- ・普通です。
- ・ザリガニ釣りが楽しかった。

○8月回収分

- ・ザリガニ釣りで1匹とりました！
- ・今日はビオトープ公園にきました。楽しかったです。
- ・イベントが楽しかったです。

○9月回収分

- ・いろいろな生きもののが知れて良かったです。あといろいろなことを教えてくれて良かったです。
- ・とても良かったです。無料で楽しめるので来年も来たいです。
- ・ザリガニやいろいろな虫がいたので嬉しかったです。
- ・ザリガニ釣りで一匹もつれなかった。今度こそ釣ります！
- ・鉢の管理も生体の管理も適当にしすぎでは？
- ・子供の頃を思い出しました。

○10月回収分

- ・職員態度がすごくよくて、ここはとても、世界一の公園だと思いました。
- ・3歳の子と父(すみません母は虫が苦手)とで、よく来ます。ケミカルなものが極力少なく4年前までいた小笠原を思い出します。水路拡張を期待してます！大ファンです！
- ・戦前の田舎へ帰った気分です。自然の美しさ、自然の生きものに会っている僕の頃に帰ったようです。素晴らしい、懐かしい思いです。今度は友人と一緒に来館したいと思っています。
- ・バッタとりが楽しかったです。

- ・ビオトープはいろいろな虫がいて楽しい！来てよかった！
- ・どんぐりコマなど楽しい。
- ・ザリガニ釣りは意外と難しかったけど、カワセミを見られたからうれしかったです。
- ・楽しかったです。

○11月回収分

- ・みんな笑顔でむかえてくれてありがとうございます。
- ・しぜんをたのしめました。
- ・どんぐりのこまであそびました。
- ・たのしかったです。また遊びに来ます！

○1月回収分

- ・しぜんがいっぱいできもちいい。
- ・きょうのしぜんのあそび屋台はたのしかったです。カマキリのたまごがみつかりました。
- ・解説員とさがしものゲームをしました。自分は3つしか見つけられなかったけど楽しかったです。

○2月回収分

- ・すごく楽しい！最高！！
- ・ビオトープは本当に楽しかったです。また来ます。
- ・またよろしくお願いします。
- ・自然の事がよくわかる！
- ・楽しかったです！！ありがとう！！
- ・また今度来ます。
- ・あそびにくい。
- ・普通だった。
- ・(以下、箇条書きで記入)
 - ① 宣伝不足。
 - ② 活性化を願う。
 - ③ 敷地がある。
 - ④ 動物を子どもたちに飼育させる。
 - ⑤ その他いろいろありますがまた今度。

○3月回収分

- ・いろいろな生物の勉強ができてとっても嬉しいです。これからも、ビオトープの仕事を頑張ってください。
- ・小学五年生の時によく来ていて久しぶりに来てみて(中二)前と変わらず自然が豊かでとても良いと思いました。
- ・いろんなものを作れたり、ザリガニ釣りをできるので、とっても嬉しいです。いつもありがとうございます。

- とっても楽しくてなんでも作れて楽しかった。今度は全部作りたい。超楽しかった。
- ビオトープの人へ。今日はしおりを作っていただきありがとうございます。私はしおりを作るのがとても楽しかったです。しおりの作り方がよくわかりました。とても楽しかったです。また来ます。
- いろいろな生物がいてとても楽しいところです。初めて来て、「いいなあ」と思いました。調べたいことも、めっちゃ調べられるので、気軽に一人でも来られます。

3) インタープリテーション業務

① インタープリテーションの方針

当公園でのインタープリテーション（自然解説）は、「ねらい」を明確にした上で、来館者の関心に訴えかける方法（プログラム）が用意される必要があります。そしてプログラムは断片的にならないようにし、環境教育の全体像における位置づけ（ポジショニング）が意識されなければなりません。

当公園は、近隣住民による日常的な利用も多くあり、自然環境や生き物について関心の度合いも様々で、意識レベルに応じたプログラムが求められます。また小学校などの校外学習などによる団体向けの対応も求められます。インタープリテーション（解説）業務を中心とした桑袋ビオトープ公園での環境教育活動は図-2のようになり、それに応じて以下のような具体的なインタープリテーションを用意しています。

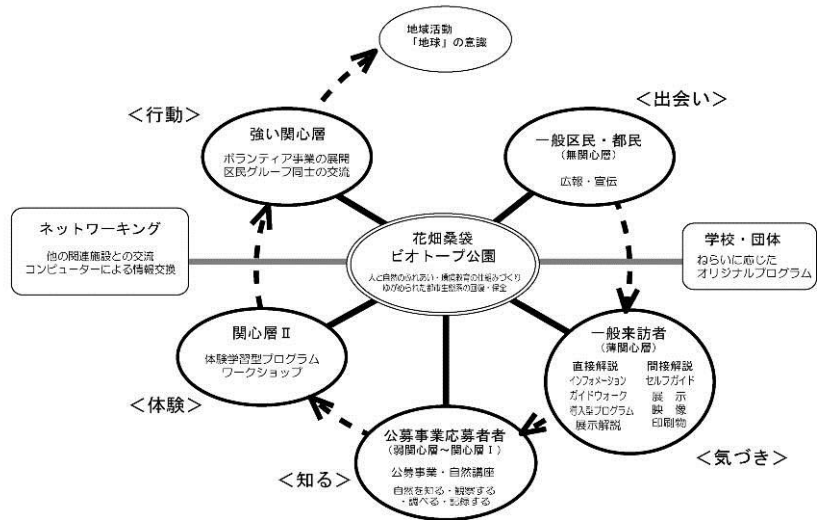


図-2 当公園における環境教育の展開

② 具体的なインタープリテーション活動

当公園のインタープリテーションには直接的解説と間接的解説があります。前者は解説員が直接対応することで効果的に公園の「おもい」を伝えることができます。後者は直接的解説とくらべると効果は低いものの、多くの人に対応できること、時間を限定せずに来館者が利用できるという利点があります。

直接的なインタープリテーション

- ・ インフォメーション
- ・ レンジャートーク
- ・ プログラム（導入型、発展型、その他のプログラムなど）
- ・ 団体利用
- ・ 区民協働型事業（ボランティア養成講座、ビオレンジャーなど）

間接的なインタープリテーション

- ・ 展示（館内、館外、特別企画展示）
- ・ 図書コーナー
- ・ 教材開発（ワークシート、スライドなど）
- ・ 広報活動（ニュースレター、ポスター、チラシ、HP、メディアへの情報発信）

③インフォメーション、レンジャートーク

「インフォメーション」 来館者のニーズに応じて、施設やイベントの案内を行う。単なる情報提供に終わらずに、自然の楽しみ方や自然への気づきにつながるように心がける

「レンジャートーク」 来館者の関心に応じて、展示や季節の自然などを通じて解説を行う。実際に野外でも体験したいという気持ちにつながるように心がける。

当公園での来館者へのインフォメーション、レンジャートークは、来館者のニーズを把握するとともに、インタープリテーション活動をより効果的に実践するために大切な業務です。実施状況を表-3及び表-4に示します。

インフォメーションは、年間で延べ4,000人以上に行いました。内容としては、イベント情報の他、ボランティア活動、団体利用などを中心に案内をしました。また例年人気の高いザリガニ釣りも、年間を通して問い合わせがあり、受付方法や出現する時期などを案内する機会が多くありました。

レンジャートークは年間で延べ1万人以上に行うことができました。生物園との連携事業として開催した特別展で一時的に飼育する生物の種数を増やした結果、ビオレンジャーの活動から一般来館者まで、それらの生き物のエサ捕りをしてもらったり、生態の解説活動を行う機会が多くありました。

他方、インフォメーション、レンジャートークともに24年度を下回る結果となりました。原因として、来園者数が増加したことで個々の対応が薄いものとなり、インフォメーションやレンジャートークに結びつかなかったことが考えられます。この対策として、野外解説ボランティア導入による解説スタッフの増強、ニュースレターなど出版物の配布強化を実施していきます。

表-3 インフォメーション、レンジャートークの実施状況

| 月 | インフォメーション | | | レンジャートーク | | |
|--------|-----------|------|------|----------|------|-------|
| | 大人 | 子ども | 合計 | 大人 | 子ども | 合計 |
| 4 | 112 | 163 | 275 | 323 | 541 | 864 |
| 5 | 202 | 267 | 469 | 733 | 820 | 1553 |
| 6 | 118 | 142 | 260 | 471 | 645 | 1116 |
| 7 | 90 | 140 | 230 | 432 | 621 | 1053 |
| 8 | 100 | 131 | 231 | 430 | 662 | 1092 |
| 9 | 99 | 129 | 228 | 256 | 406 | 662 |
| 10 | 71 | 95 | 166 | 388 | 377 | 765 |
| 11 | 58 | 87 | 145 | 348 | 395 | 743 |
| 12 | 55 | 92 | 147 | 255 | 342 | 597 |
| 1 | 59 | 80 | 139 | 360 | 338 | 698 |
| 2 | 52 | 73 | 125 | 232 | 343 | 575 |
| 3 | 90 | 133 | 223 | 398 | 686 | 1084 |
| 合計 | 1106 | 1532 | 2638 | 4626 | 6176 | 10802 |
| 平成24年度 | 1523 | 2607 | 4130 | 4160 | 7117 | 11277 |

表-4 平成25年度の主なレンジャートーク一覧

| 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 |
|--------------|-------------|------------|------------|-------------|---------------|
| ハスの新芽について | カキツバタについて | ナミテントウについて | ネジバナについて | 園内のエビについて | ショウリョウバッタについて |
| ゴイサギについて | テントウムシの卵 | ハコネウツギについて | オオガハスの開花 | セミの見分け方 | ヒメホシカメムシについて |
| オオノスノドリについて | カナヘビの餌 | オオミズアオについて | シモツギについて | オナモミについて | モツゴについて |
| カラスノエンドウについて | アオダイショウについて | アマガエルについて | クモの抜け殻について | フタクサについて | セミの鳴き方 |
| 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
| ヤモリとイモリの違い | コオロギについて | ダンゴムシについて | 浄化施設について | ハクセキレイについて | ミズについて |
| 絶滅危惧種について | ゾウムシについて | 落ち葉について | アカメヤナギについて | 冬越しについて | ワラジムシについて |
| ニホトカゲについて | ドンダリについて | ため池の野鳥 | ピオトープについて | 梅の開花 | ススキについて |
| アオダイショウについて | 綾瀬川について | 園内のカマキリの種類 | カワセミについて | アオダイショウについて | ニホンカナヘビについて |

④導入型プログラム、発展型プログラム、その他のプログラム

| | |
|-----------|--|
| 導入型プログラム | 自然の中で遊びたい、自然を体験したいという方に、気軽に参加できるプログラムを実施。(当日募集) |
| 発展型プログラム | 自然に関心があつて、もっと深く知りたい、じっくり観察したいという方に、より深い内容のプログラムを実施。(事前募集型) |
| 自然のあそび屋台 | 解説員が屋外で待機し、来園者に対してその日の自然素材でできる簡単なプログラムを実施。(当日募集) |
| その他のプログラム | 上記以外にリピーターやイベントのない日の来園者の要望に応じて、不定期の個人対応プログラムを実施。(随時受け付け) |

今年度は、導入型プログラムを 18 回、発展型プログラムを 11 回、自然のあそび屋台 36 回、その他のプログラムを 1137 回実施しました (表-5)。

プログラム実施中や実施後に得た感想、アンケート結果 (図-3~5、表-8~9) から、参加された方は十分な満足と自然やビオトープへの理解を深められた様子が伺えます。プログラムの参加状況の特徴を見ると、導入型の参加率が 86%と昨年度 (79%) よりも増加しました。発展型プログラムは、昨年度よりも実施回数が少ない (24 年度は 12 回実施) ため参加者数の合計が 208 人と昨年度 (226 人) より少ないものの、応募率は 136%で昨年度 (74%) を大きく上回りました。

今年度は導入型・発展型プログラム共に参加率が昨年度よりも増加し、昨年度以前の値に戻りつつあるのが伺えます。また、実施プログラムのマンネリ化によるプログラム参加率減少が考えられたため、導入・発展型プログラム共に、昨年度実施したものから内容を一新したことも、参加率増加につながったと考えられます。さらに、一般紙への掲載や民放番組からの取材などマスコミからの注目度が高く、これらによる情報発信が参加率増加に大きく影響したものと考えられます。

表-5 平成 25 年度のプログラムの実施回数と参加状況

| | 回数 | 参加者数 | | | 平均参加者数 | 定員 | 参加率 |
|----------|------|------|------|------|--------|----------|-----|
| | | 大 | 小 | 計 | | | |
| 導入型プログラム | 18 | 92 | 219 | 311 | 17.3 | 各回20人 | 86% |
| 発展型プログラム | 11 | 88 | 120 | 208 | 18.9 | 各回20~50人 | 80% |
| 自然のあそび屋台 | 36 | 413 | 132 | 545 | 15.1 | なし | - |
| その他 | 1101 | 1205 | 6452 | 7657 | 7.0 | なし | - |
| 合計 | 1166 | 1798 | 6923 | 8721 | 7.5 | - | - |

・導入型プログラム

昨年度よりプログラムの実施回数が減ったため（24年度は26回実施）、全体の参加者数は昨年度と比較すると減少しましたが、参加率は増加しています。また、「3回以上参加したことがある」と回答した参加者が32%と、もっとも大きな割合を占めていました。

特に参加人数の多かったプログラムは、「おもしろメガネで自然観察」（23人）「虫の赤ちゃん大集合」（24人）「発見！水中マイクロモンスター」（24人）「押し花でステンドウちわを作ろう」（39人）「ゆらゆら紙トンボ作り」（26人）「ツクシのもこもこブローチ作り」（21人）でした。

全体的な参加状況を見ると、当公園の貴重な自然環境を利用した生きもの観察プログラムや、自然物を用いたクラフト体験などのプログラムへの参加率が高いことが読み取れます。当公園は交通の便があまり良くないため、特に遠方からの利用者には「桑袋ビオトープ公園でしか体験できない」内容が、プログラム参加のきっかけにつながると考えられます。今後も参加者のニーズをよく把握し、当公園ならではのプログラムを実施すると共に、子どもから大人まで楽しめるプログラムを実施していきたいと考えます。

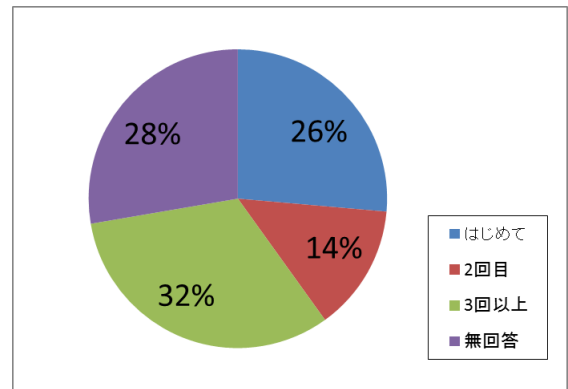


図-3 導入型プログラムのリピーター率

表-6 導入型プログラム参加状況

| | 実施日 | プログラム名 | 参加者数 | | | 参加率(%) |
|----------|--------|--------------------|------|-----|-----|--------|
| | | | 大人 | 子ども | 計 | |
| 1 | 4月14日 | 自然の絵の具で絵を描こう | 6 | 13 | 19 | 95% |
| 2 | 4月28日 | おもしろメガネで自然観察 | 10 | 13 | 23 | 115% |
| 3 | 5月3日 | 虫の赤ちゃん大集合 | 9 | 15 | 24 | 120% |
| 4 | 5月6日 | テントウムシのカードスタンドづくり | 6 | 14 | 20 | 100% |
| 5 | 6月2日 | 発見！水中マイクロモンスター | 6 | 18 | 24 | 120% |
| 6 | 6月16日 | カルガモウォッチング | 5 | 8 | 13 | 65% |
| 7 | 7月14日 | 押し花でステンドウちわを作ろう | 6 | 33 | 39 | 195% |
| 8 | 7月28日 | ザリガニ博士になろう | 4 | 8 | 12 | 60% |
| 9 | 8月18日 | 調査キットで簡単！水調べ | 3 | 5 | 8 | 40% |
| 10 | 9月29日 | ゆらゆら紙トンボ作り | 6 | 20 | 26 | 130% |
| 11 | 11月10日 | 落ち葉で作ろう！モザイクアート | 4 | 9 | 13 | 65% |
| 12 | 12月8日 | めくって発見！地中マイクロモンスター | 4 | 6 | 10 | 50% |
| 13 | 12月22日 | 天然ドライフラワーで壁飾りを作ろう | 3 | 5 | 8 | 40% |
| 14 | 1月12日 | 新春！ビオトープジャンボカルタ大会 | 1 | 8 | 9 | 45% |
| 15 | 1月26日 | 飛び出す野鳥のカード作り | 6 | 13 | 19 | 95% |
| 16 | 2月2日 | 見つけてそろえて！冬の生きものビンゴ | 5 | 8 | 13 | 65% |
| 17 | 3月2日 | 生きものバランスゲームをつくろう | 4 | 6 | 10 | 50% |
| 18 | 3月16日 | ツクシのもこもこブローチづくり | 4 | 17 | 21 | 105% |
| 計 | | | 92 | 219 | 311 | 86% |
| 平成24年度合計 | | | 140 | 355 | 495 | 79% |

導入型プログラムの事例紹介（一部）

「自然の絵の具で絵を描こう」 4月14日実施

園内の野草の花や葉・土を使って絵の具づくりをしました。今回はタンポポ・ヒメオドリコソウ・ヨモギ・土をそれぞれすりつぶし、それらに水とボンドを加えオリジナルの絵の具をつくりました。参加者からは、「すりつぶすとすごい匂いがする」「土の絵の具が好きだから沢山使った！」「タンポポ絵の具でタンポポを描いてみたよ！」という声も聞こえ、自然の素材で作ることができる手づくり絵の具を気に入って下さった様子でした。

「おもしろメガネで自然観察」 4月28日実施

オリジナルの観察道具を作り、それを用いて自然観察をしてもらうイベントを実施しました。虫眼鏡のように覗いて見ることで、野草や水辺など自分のお気に入りの観察ポイントを見つけてもらいました。家族や友だち同士でお互いが発見したことを共有しながら、楽しんで自然を見ていたのが印象的でした。

「虫の赤ちゃん大集合」 5月3日実施

春ごろに発生する様々な虫の幼虫を観察するプログラムです。成虫と幼虫では形態が大きく異なる場合があることなどをスライドを用いて説明した後、園内の草地で虫捕りをしました。自分の捕まえた虫が成虫なのか幼虫なのか区別するのは、参加者にとって新鮮な経験だったようです。テントウムシやバッタ類など、身近な虫のもつ新しい一面を体験するプログラムとなりました。

「テントウムシのカードスタンド作り」 5月6日実施

テントウムシの模様を観察し、個々の違いを見るプログラムです。参加者とテントウムシを捕まえ、観察しました。参加者は動きまわるテントウムシを一生懸命観察して模様を描き写し、模型に色塗りしていました。特に、同じ種類のテントウムシの中にもいろいろな模様があるということに対して、大人も子どもも感心している様子でした。

「発見！水中マイクロモンスター」 6月2日実施

水中に漂う小さなプランクトンに焦点を当て、特殊な道具を用いて採集、観察を行いました。観察にはルーペとUSBマイクロスコープを用い、採集したプランクトンが生きて泳ぐ様子をスクリーンに映し出せるようにしました。肉眼では小さな粒にしか見えない生き物が、活発に活動する様子を拡大して眺めることで、生物多様性を実感できるプログラムとなりました。

「押し花でステンドうちわをつくろう」 7月14日実施

園内で見つけた野草を押し花にして、うちわ形にラミネートしたものを作りました。春に比べると花が咲いている野草は少ないため、葉の形や色の違いに注目しながら野草を探してもらいました。葉っぱの中にもいろいろな形があることに気づいてもらい、その形を活かしながらいちわの模様を考えている様子が印象的でした。また、今回のイベントは大変な人気だったため、急遽2回目も実施しました。

「ゆらゆら紙トンボ作り」 9月29日実施

まずトンボについて館内で説明し、それから園内のため池や草地でトンボを観察しました。その後、館内でトンボの実物や写真を見ながら紙製のトンボを作り、園内で見られるトンボの色に塗ってもらいました。イベント終了後には、参加者から「これからトンボ観察にいきます」という声を聞くことができました。

「ツクシのもこもこブローチ作り」 3月16日実施

まずはツクシについて、スライドを用いながら説明しました。その後園内に出てツクシを探し、スケッチをしてもらいました。自分の小指ほどの小さなツクシをみつけたり、たくさん生えている場所を見つれたりしていました。最後に、毛糸を使ってツクシ型のブローチを作りました。ツクシを見たことはあるけど、ここまでじっくり見たのは初めてという方が多かったようです。スケッチもブローチづくりも、真剣に取り組んでいた様子が伺えました。

・発展型プログラム

今年度、発展型プログラムは応募率、参加率共に昨年度と比較し大きく増加しています（表－7）。要因として、「ため池のかいぼり体験～見つけて、とって！生きもの救出大作戦」が新聞の全国版に掲載されたことにより知名度が高まったこと、「実はおいしい！？身近な外来種を食べよう」など注目度の高い新規イベントを実施したことが挙げられます。また応募率、参加率共に100%を超えたものは「ため池のかいぼり体験～見つけて、とって！生きもの救出大作戦」でした。「ため池のかい掘り体験」「どろんこハス掘り体験」は応募率が200%以上と昨年度を大きく上回り、プログラムとしての注目度の高さが伺えます。

参加者の満足度（とてもよかった）が83%と昨年度（80%）よりも増加し、依然として高い値です（図－4）。リピーター率も約60%と昨年度と変わらない高い値となりました（図－5）。新規イベントの実施やマスコミによる情報発信により新規参加者が増加し、その参加者がリピーターとなり、再びイベントに参加していることが考えられます。

またここ数年、プログラムのマンネリ化による応募率、参加率が減少する可能性が考えられたため、プログラム内容を一新しました。リピーターが多いことから、今後もプログラム内容は新しいものを考え実施していくことで、新規参加者とリピーター共に満足度を上げることが必要だと考えます。

表－7 発展型プログラム応募状況および参加状況

| | 実施日 | プログラム名 | 応募者数 | | | 応募率 | 参加者数 | | | 定員 | 参加率(%) |
|----|---------|-------------------------------|------|-----|-----|------|------|-----|-----|-----|--------|
| | | | 大人 | 子ども | 計 | | 大人 | 子ども | 計 | | |
| 1 | 5月26日 | 野鳥のごちそういただきます～木の実のジャムの試食つき～ | 8 | 10 | 18 | 90% | 4 | 3 | 7 | 20 | 35% |
| 2 | 6月30日 | 野草でつくろう！光のインテリア | 7 | 13 | 20 | 100% | 7 | 12 | 19 | 20 | 95% |
| 3 | 7月21日 | つくってみよう！コウモリハウス | 10 | 13 | 23 | 115% | 9 | 13 | 22 | 20 | 110% |
| 4 | 8月7日～8日 | 里山ピオトープ探検ツアー | － | 22 | 22 | 110% | － | 19 | 19 | 20 | 95% |
| 5 | 9月14日 | ため池のかいぼり体験～みつけて、とって！生きもの救出大作戦 | 54 | 82 | 136 | 272% | 17 | 28 | 45 | 50 | 90% |
| 6 | 10月6日 | ハスの花托でハンカチを染めよう | 10 | 10 | 20 | 100% | 8 | 6 | 14 | 20 | 70% |
| 7 | 10月20日 | どろんこハス掘り体験 | 38 | 44 | 82 | 273% | 5 | 10 | 15 | 30 | 50% |
| 8 | 11月3日 | 実はおいしい！？身近な外来種を食べよう | 13 | 16 | 29 | 145% | 7 | 8 | 15 | 20 | 75% |
| 9 | 11月24日 | ピオトープの森でわくわくデイキャンプ | 11 | 14 | 25 | 125% | 8 | 13 | 21 | 20 | 105% |
| 10 | 12月21日 | ピオトープ講座「野鳥の営巣しやすい水辺作り」 | 13 | － | 13 | 65% | 13 | － | 13 | 20 | 65% |
| 11 | 2月23日 | ヒラタケのほだ木作りに挑戦！ | 11 | 10 | 21 | 105% | 10 | 8 | 18 | 20 | 90% |
| | | 計 | 175 | 234 | 409 | 136% | 88 | 120 | 208 | 260 | 80% |
| | | 平成24年度合計 | 140 | 164 | 304 | 74% | 109 | 117 | 226 | 280 | 66% |

発展型プログラムの事例紹介（一部）

「刈草でつくろう！野草の紙すき体験」 6月30日実施

身近な自然を生活に取り入れる楽しみを感じてもらおうとともに、当公園の環境管理について知ってもらうことを目的に実施しました。まず、環境管理作業の体験として、草地の草刈りをしてもらいました。いろいろな生きものが見られたことで、草刈り管理作業は生きものにとって重要だということを感じてもらえたようでした。室内に戻ってから紙漉きの体験をしてもらいました。刈草をすりつぶすと繊維がでてくることに、参加者は驚いていました。その繊維とミキサーで細かくした野草を混ぜて紙漉きを行いました。昼食後、漉いた紙を使って光のインテリアを作成しました。照明を消して光のインテリアのライトをつけたときは、参加者から感嘆の声がきかれました。生きものの居場所をつくるためには人の手による管理が重要だということを伝えるイベントになりました。

「夜空の忍者★コウモリを観察しよう」 7月21日実施

観察や巣箱づくりを通してコウモリの生態を知り、身近な野生動物の生態やそれを取り巻く環境に興味を持ってもらうことを目的としました。スライドを使用しながら、コウモリの生態とコウモリハウスを作る意味について解説し、その後コウモリハウスを制作しました。日没後作業を中止して、バットデテクターを使用しての観察を行いました。コウモリが間近に迫る度に参加者の歓声が聞かれました。その後作業の続きを行い、グループ内でわきあいあいとしながらコウモリハウスの仕上げを行いました。最後にコウモリの実際の大きさを参加者に予想してもらいながら、実物標本を見てもらいました。予想よりもずっと小さなコウモリの姿に驚いていた様子でした。小さなコウモリも、生きものの一員であることを解説しました。

「里山ビオトープ探検ツアー」 8月7日～8日実施

都心から離れた里山の自然環境の中で野外体験をすることで、環境や生息する生きものの違いを体感することを目的に実施しました。「さいたま緑の森博物館」と共催で実施し、豊かな自然に触れることができました。時間や場所を変えて様々な視点からの観察を行うことができ、里山環境を包括的に体験する良い機会となりました。初めて野生のカブトムシに触れた参加者もあり、貴重な経験を提供する機会となったようです。生きものと環境のつながりを明確にするため、里山環境を簡潔に図示した大型シートに見つけた生きものを書いた付箋を貼る、という手法をとりました。自分が経験したことを付箋に書くというステップを入れることで、体験として参加者の中に落とし込まれたと考えられます。

「ため池のかい掘り体験～みつけて、とって！生きもの救出大作戦」 9月14日実施

ビオトープ公園における水辺管理の必要性を認識してもらうことを目的に実施しました。今回は生物園・当公園・荒川ビジターセンターの3館が連携する「あだちの水辺再発見プロジェクト」のひとつとして行われました。公園管理ボランティア・公園サポーターにもイベント補助として参加してもらいました。まずセミナー室でイベントの概要・生物園での結果・かい掘りについての説明を行いました。その後外に出て水位を下げたため池に入り、生きものとりをしてもらいました。楽しそうに生きものをとっている様子が見られ、とった生きものはボランティアと協力して同定・カウントを行いました。生きものとり終了後、ヘドロかきを行いました。声をかけあいながらの作業を楽しんでいる様子でした。その後、とれた生きもの集計結果を発表しました。今年はアメリカザリガニが少なく、エビ類・肉食性のハゼが多いとい

う結果になりました。最後に、ため池で多様な生きものが生息できるようになるには環境管理が不可欠なこと、それぞれの生きものが関係しあっていることを伝えました。

「ビオトープの森でわくわくデイキャンプ」 11月24日実施

園内の雑木林から得られる自然物を使った様々な体験を通じて、雑木林についての理解を深めてもらうことを目的に実施しました。最初に当公園のサンクチュアリの紹介をしました。続いてサンクチュアリに移動して、自然の中に設置した人工物を見つけるゲームを行いました。その後、お花炭を作るための素材をサンクチュアリの中で探し、お花炭をつくる準備として拾ってきた素材を入れ物につめました。館外でお花炭をつくるための火を起し、そこに素材を入れた入れ物を入れました。子どもの参加者だけでなく大人の方も楽しそうにしている姿が印象的でした。火を囲みながら昼食を食べた後は、出来上がったお花炭を取り出し、そのお花炭を入れるカゴづくりを行いました。園内の環境管理で伐採枝を利用し、枝を組んでひもで固定したカゴに木の実や落ち葉などの自然物で飾り付けをしました。できたカゴに作ったお花炭を飾りました。出来上がった作品をみて、参加者がとても満足そうにしていました。

「ヒラタケのほだ木作りに挑戦！」 2月23日実施

ヒラタケのほだ木作りを通し、雑木林の環境や自然物の循環に興味をもってもらうことを目的に実施しました。はじめにキノコの生態や雑木林での機能について解説しました。次にサンクチュアリに入り、昨年作成したシイタケのほだ木や朽木を観察したり、伐採したクワを観察しました。朽木にハサミムシが入っており、生きものすみかとして機能していることを実感してもらうことができました。その後、クワの原木にコマ打ちを行いました。ほとんどの参加者にとって初めての体験で、一生懸命作業している様子がうかがえました。次に、参加者が持ち帰るミニ原木にコマ打ちを行いました。コマ打ちの終わったクワのほだ木はサンクチュアリに運び、水分を含ませるため布をかけて水をかけました。雑木林での生きものつながりや循環に対する理解が深まったとともに、参加者の再来園につながることを期待されます。

表-8 発展型プログラム実施後のアンケート結果

| | 5月26日 | 6月30日 | 7月21日 | 8月7日~8日 | 9月14日 | 10月6日 | 10月20日 | 11月3日 | 11月24日 | 12月21日 | 2月23日 |
|-------------------|------------------------------|-----------------|-----------------|--------------|-------------------------------|-----------------|------------|---------------------|--------------------|-----------------------|----------------|
| タイトル | 野鳥のごちそういただきます！～木の実のジャムの試食つき～ | 野草でつくろう！光のインテリア | つくってみよう！コウモリハウス | 里山ピクトーブ探検ツアー | ため池のかいほり体験～みつけて、とって！生きもの救出大作戦 | ハスの花托でハンカチを染めよう | どろんこハス掘り体験 | 実はおいしい！？身近な外来種を食べよう | ピクトーブの森でわくわくデイキャンプ | ピクトーブ講座「野鳥お馴染しやす水辺作り」 | ヒラタケのほだ木作りに挑戦！ |
| 回答者人数 | 6 | 18 | 22 | 19 | 35 | 14 | 14 | 15 | 17 | 13 | 18 |
| 当公園のイベント参加回数 | | | | | | | | | | | |
| はじめて | 2 | 6 | 9 | 10 | 16 | 7 | 6 | 9 | 3 | 7 | 3 |
| 2回目 | 1 | 0 | 4 | 4 | 10 | 0 | 1 | 0 | 3 | 2 | 1 |
| 3回目 | 3 | 12 | 9 | 5 | 9 | 7 | 7 | 6 | 11 | 4 | 14 |
| 無回答 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| イベントを知った理由(複数回答可) | | | | | | | | | | | |
| あだち広報 | 1 | 5 | 5 | 4 | 7 | 5 | 2 | 9 | 5 | 3 | 1 |
| ニュースレター・ポスター・ちらし | 3 | 6 | 11 | 6 | 7 | 2 | 6 | 6 | 9 | 3 | 12 |
| スタッフから | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 6 | 1 |
| 友達・家族に誘われて | 1 | 5 | 6 | 6 | 11 | 5 | 6 | 0 | 2 | 1 | 4 |
| 公園ホームページ | 0 | 0 | 0 | 2 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| その他 | 1 | 2 | 0 | 1 | 6 | 1 | 2 | 0 | 0 | 1 | 0 |
| 無回答 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| イベントの満足度 | | | | | | | | | | | |
| とてもよかった | 4 | 16 | 17 | 18 | 27 | 13 | 12 | 13 | 15 | 7 | 17 |
| よかった | 2 | 2 | 5 | 1 | 7 | 1 | 2 | 2 | 2 | 6 | 1 |
| あまりよくなかった | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| よくなかった | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 無回答 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |

図-4 発展型プログラムの満足度

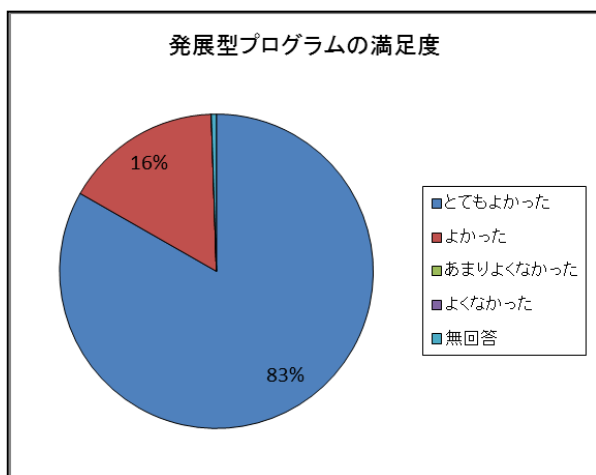


図-5 発展型プログラムのリピーター率

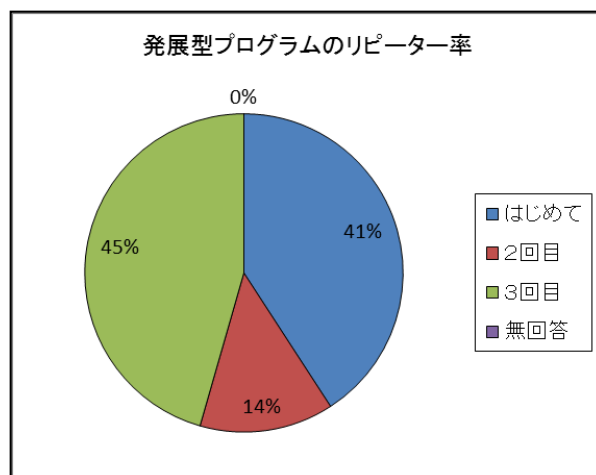


表-9 発展型プログラムのアンケート自由記述（一部）

「野草でつくろう！光のインテリア」

- ・野草でインテリアを作ったり、生きもののためになることがわかった。
- ・草取りでは、今までゴミに出していた草が堆肥になることを知りました。これからは、普段でもゴミに出さずに草を堆肥にして、花壇に使うようにします。紙すきのあとのランプシェード作りは、とてもステキでした。LEDライトをつけたときの“光”の美しさが素晴らしかったです。紙の文化ってすごいですね。
- ・草刈り、虫発見、すり鉢、紙すき、インテリア作り、全て楽しかったです。すり鉢ですって紙すきという昔ながらの方法で作れるのが新鮮で面白かったです。出来上がりがきれいで感動しました。またイベントに是非参加したいです。スタッフの方も丁寧に優しく教えて下さり有難うございました。
- ・身近な雑草でも紙ができること。
- ・草で紙が作れるなんて、知らなかった。
- ・ちゃんと作れてうれしかった。
- ・草刈りとかが楽しかった。
- ・紙の作り方がわかった。
- ・野草のインテリアです。
- ・紙漉きは初体験だったので、勉強になりました。
- ・カマキリのこどもがいた。
- ・バツがいた。カマキリがいた。
- ・草刈りが楽しかった。来てよかった。

「つくってみよう！コウモリハウス」

- ・身近にコウモリがいることがわかってよかったです。
- ・コウモリハウスを作ったのが楽しかった。(同様の意見 3 件)
- ・コウモリについて色々わかっておもしろかった。(同様の意見 3 件)
- ・子どもに釘を打つことを知ってもらいよかったです。
- ・コウモリをみつけられてよかったです。
- ・超音波が聞けてよかったです。(同様の意見 6 件)
- ・いろいろ釘とか金槌を使うのは初めてだったので楽しかったです。
- ・コウモリのイベントがたのしかった。
- ・なかなかコウモリを見る機会が無いので参加して良かったです。コウモリの顔がとてもかわいいことを発見できました。
- ・もう少しコウモリの生態を教えてもらえたらもっと良かったです。(子どもをどうやって育てるのかとか・・・)
- ・コウモリの食生活・超音波・身近に感じるところがたくさんあり、おもしろかったです。

「里山ビオトープ探検ツアー」

- ・カブトムシをみて、触ることができて楽しかったです。(同様の意見 4 名)
- ・みんなで虫捕りをして仲良くなれたのでよかったです。
- ・オサムシが空を飛べないことを、初めて知りました。ノコギリクワガタがカブトムシの頭に穴をあけるほど力が強いなんて初めて知りました。
- ・ハチは最初は怖くて大変でした。でももう怖くなくなりました。(同様の意見 3 名)
- ・ニホントカゲがとてもきれいでした。(同様の意見 2 名)
- ・虫に触れたことがうれしかったです。
- ・初めてマツモムシを見て楽しかったです。
- ・森にタヌキがいることがわかりました。
- ・夜の探検が怖かったけど楽しかったです。(同様の意見 2 名)
- ・今まで見たことがなかった虫をたくさん見ることができました。(同様の意見 6 名)

「ため池のかい掘り体験～みつけて、とって！生きもの救出大作戦」

- ・泥の中に入って生物を探るという体験はできないので、親子とも楽しい時間が過ごせました。
- ・いろんな生物が取れたこと。1年で生体数がかなり違ってくるとはびっくりしました。(同様の意見 3件)
- ・初めて家族で生き物調査をしました。貴重な体験をさせて頂きありがとうございました。
- ・ため池をかき掘りすることをしらなかったで、生きものを探したりヘドロをみんなですくってバケツリレーをして楽しかったです(同様の意見 4件)。
- ・生きものがたくさんいた(同様の意見 4件)。
- ・普段は池に入ってはいけないと言っただけですが、今日は入ってOKとってOK。子どもにかえって楽しみました。(同様の意見 1件)
- ・コイがいるかと思っただけで小さな生きものばかりでちょっとがっかりしました。
- ・池の中にも色々な生き物が共存していること(同様の意見 1件)
- ・入ってみて気持ち良かった。生き物に親近感を持った。
- ・アメリカザリガニを初めて触った。
- ・魚がいっぱいとれてすごく楽しかった。エビのしっぽのほう丸まっていた。
- ・ザリガニが獲れたこと、エビがとれたこと
- ・色々な生き物を自分の手でつかまえたこと
- ・エビをみつけたこと

「ピオトープの森でわくわくデイキャンプ」

- ・野外で炭を作る体験はなかなかできる事ではないので楽しかったです。形のままの炭は本当にきれいでした。
- ・道ばた等に目をこらした事がなかったので、注意力を養いたいです。
- ・森のクイズがとても楽しかったです。自然に親しめて良かったです。
- ・森にはいろいろなものや植物があるんだなと思いました。
- ・自然のゲームを体験して、意外とわからないものなんだなあと思いました。とてもおもしろかったです。盛りだくさんの内容で全てがたのしい一日でした。また参加したいです。
- ・落ち葉や木の枝やカマキリやハサミムシなどがいました。今日はとても楽しかったです。
- ・かご作りが簡単ですぐできました。それが意外でした。
- ・ゲームが楽しかった。
- ・森の中のフェイクさがして、よく見えてもなかなか見つからないものだなと思いました。
- ・森に入れたこと。
- ・お花炭をつくったのがたのしかった。
- ・森で遊んだこと。
- ・森で探し物ゲームをしました。たのしかったです。

「ヒラタケのほだ木作りに挑戦！」

- ・森の仕組み、明るくすることのメリットについて。
- ・ほだ木のコマ打ち体験が楽しかった。
- ・一度やってみたかったので、体験できてよかったです。今度は自分でもやってみます
- ・昨年シイタケでやったことがあり、その時と同じく楽しかったです。
- ・キノコの生態について知ることができた。
- ・ドリルでの穴あけ。
- ・シイタケよりヒラタケのほうが成長が早い。
- ・キノコの種類によって栽培方法が違うこと。
- ・菌の食べ物。
- ・種菌を木の中に打ったこと。
- ・ほだ木を初めて知りました。
- ・キノコの種類によって育て方がいろいろあることを知りました。
- ・ほだ木の育て方を知った。
- ・ほだ木と普通の木の違い。
- ・ドリルで穴をあけるのが大変だった。
- ・ドリルがこわかった。
- ・種菌を植えるのが楽しかった。

・その他のプログラム

その他のプログラムは、導入・発展型プログラムと違い、当日に来園者の興味や関心から発展して実施するプログラムです。来園者の年齢や関心に合わせて適切なプログラムを実施でき、少人数で実施するため環境教育的効果が高いと思われます。また、普段は見られないその時その場でしか起こりえない自然現象を逃さずに捉えられることがフィールドをもつ当公園の魅力であり、リピーターにつながると考えます。

その他のプログラムには今年度から開始した「自然のあそび屋台」が含まれ、導入型・発展型イベントを行わないすべての日曜日及び祝日の、年間36回実施しました（詳細はp21）。

また特別展示開催に伴って生体展示を充実させたことで、飼育生物のエサ捕りや給餌体験プログラムを行う機会が多くありました。カマキリやカエルなど身近に生息する生き物でも、餌を食べる瞬間を見る機会はあまりないため、子どもから大人まで夢中になって観察する様子が伺えました。

全体として実施回数は1,000回以上となり、昨年度を大きく上回りました。今後はより幅広い年齢層に対しニーズに合わせたプログラムを実施すると共に、当公園ならではの体験を提供したいと考えます。

表-10 その他のプログラム実施回数および参加状況

| 月 | 回数 | 参加者数 | | | 平均参加者数 |
|--------|------|------|------|------|--------|
| | | 大人 | 子ども | 計 | |
| 4月 | 79 | 123 | 458 | 581 | 7.4 |
| 5月 | 91 | 248 | 671 | 919 | 10.1 |
| 6月 | 87 | 258 | 902 | 1160 | 13.3 |
| 7月 | 111 | 314 | 968 | 1282 | 11.5 |
| 8月 | 134 | 231 | 753 | 984 | 7.3 |
| 9月 | 88 | 158 | 642 | 800 | 9.1 |
| 10月 | 92 | 94 | 503 | 597 | 6.5 |
| 11月 | 93 | 61 | 441 | 502 | 5.4 |
| 12月 | 83 | 27 | 279 | 306 | 3.7 |
| 1月 | 80 | 19 | 246 | 265 | 3.3 |
| 2月 | 83 | 27 | 263 | 290 | 3.5 |
| 3月 | 116 | 58 | 458 | 516 | 4.4 |
| 合計 | 1137 | 1618 | 6584 | 8202 | 7.1 |
| 24年度合計 | 783 | 1254 | 4914 | 6168 | 7.8 |

・自然のあそび屋台

今年度より新規で実施した事業で、解説員が常駐する屋台を屋外に出展し、季節の自然を利用したミニプログラムの実施と、レンジャートーク、インフォメーションを行いました。

実施は導入型、発展型いずれのプログラムも行わない日曜・祝日に行い、年間で36回実施しました。

ミニプログラムに関しては、全36回全て違うテーマで実施をしました。(実施例は次ページで紹介)

始めは参加者も少なかったのですが、5月に入る頃から利用者への定着も見られ、屋台の実施日にはそれを目当てに来園する利用者も多くなりました。場所も、来園者の目に付きやすい観察デッキ周辺で行っていたため、来園者が「何かやっている」と気づきやすく、ザリガニ釣りなどの違う目的で来園した利用者にも声をかけて参加に結びつけることができました。

次年度は、同事業を「野外解説ボランティア」を立ち上げ、区民協働型事業で行う予定です。

表-12 自然のあそび屋台参加状況

| 回数 | 日時 | 小人 | 大人 | 計 |
|----|--------|-----|-----|-----|
| 1 | 4月7日 | 3 | 9 | 12 |
| 2 | 4月21日 | 0 | 4 | 4 |
| 3 | 4月28日 | 0 | 1 | 1 |
| 4 | 5月5日 | 6 | 23 | 29 |
| 5 | 5月12日 | 5 | 23 | 28 |
| 6 | 5月19日 | 6 | 12 | 18 |
| 7 | 6月9日 | 10 | 29 | 39 |
| 8 | 6月23日 | 6 | 19 | 25 |
| 9 | 7月7日 | 9 | 22 | 31 |
| 10 | 7月15日 | 8 | 17 | 25 |
| 11 | 8月4日 | 8 | 14 | 22 |
| 12 | 8月11日 | 4 | 4 | 8 |
| 13 | 8月25日 | 3 | 7 | 10 |
| 14 | 9月1日 | 6 | 9 | 15 |
| 15 | 9月8日 | 10 | 18 | 28 |
| 16 | 9月15日 | 1 | 5 | 6 |
| 17 | 9月16日 | 0 | 5 | 5 |
| 18 | 9月22日 | 4 | 11 | 15 |
| 19 | 9月23日 | 4 | 14 | 18 |
| 20 | 10月1日 | 0 | 4 | 4 |
| 21 | 10月13日 | 0 | 16 | 16 |
| 22 | 10月14日 | 2 | 17 | 19 |
| 23 | 10月27日 | 2 | 13 | 15 |
| 24 | 11月4日 | 1 | 4 | 5 |
| 25 | 11月17日 | 1 | 7 | 8 |
| 26 | 11月23日 | 1 | 12 | 13 |
| 27 | 12月1日 | 8 | 20 | 28 |
| 28 | 12月15日 | 0 | 7 | 7 |
| 29 | 12月23日 | 4 | 11 | 15 |
| 30 | 1月5日 | 6 | 11 | 17 |
| 31 | 1月13日 | 2 | 6 | 8 |
| 32 | 1月19日 | 2 | 6 | 8 |
| 33 | 2月9日 | 0 | 4 | 4 |
| 34 | 2月16日 | 0 | 6 | 6 |
| 35 | 3月9日 | 4 | 7 | 11 |
| 36 | 3月23日 | 6 | 16 | 22 |
| | | 132 | 413 | 545 |

自然のあそび屋台で実施したミニプログラムの事例紹介（一部）

「花マップづくり」 5月5日実施

園内のどこにどんな色の花が咲いているのかを調べて、結果を大きなビオトープ公園の地図にまとめるといふ、野草調査を実施しました。よく見ると同じ種類の野草でも微妙に色が違ったよ、など自分で発見したことを嬉しそうに教えてくれる様子が印象的でした。また観察を通じて花の名前に興味をもったりと、自然に親しんでくれているようでした。

「園内の生きものしらべ」 7月7日実施

草地と林地で見られる生きものを調べる活動を行いました。生きものは参加者自身にとってきてもらい、屋台に展示した水槽に、見つけた場所ごとに分けて展示を行いました。これにより、それぞれの場所で特徴的な生きものが多く見つかったことや、環境による生きものの違いを感じてもらうことができました。

「土壌動物の観察」 9月16日実施

この日は雨天で屋外に出ることができなかつたため、室内での活動を行いました。ダンゴムシの飼育に使っているダンゴムシボックスの土をあけ、そこに暮らす生きものを観察しました。見られた生きものはダンゴムシだけでなく、ハサミムシやトビムシなど多くの生きものが見られました。観察を通じて、普段は意識することのない小さな土壌動物の存在を感じてもらうことができました。

「同じものさがし」 12月23日実施

「同じものさがし」というミニプログラムを実施しました。園内で解説員が拾い集めた自然物と同じものを、限られた時間の中で探してきてもらうものです。この日は、冬の自然に注目してもらうために木の実や落ち葉などを中心に探してもらいました。参加者は自然物を探す中で、冬の自然の多様性に気付いている様子でした。

⑤特別企画展示「消えゆく足立の生きもの展」開催（7/21～9/2）

今年度の特別企画展示は、かつての足立区と現在の足立区といった環境の違いをテーマに行いました。

昨年度と同様、清流館へ至る園路に企画展示の趣旨を説明した大きなパネルを設けたり、入口自動ドアや館内の目立つ位置に案内を出すなど、館内の展示スペースへの導入を行いました。

館内には「昔の足立」、「今の足立」、「ビオトープ公園」といったブースを作り、そこでかつて見られた生きものや現在見られる生きものの生体を展示しました。合わせて、生きものが暮らすことのできる環境や、それらの環境のつながりであるビオトープネットワーク、生きものを呼び込むための工夫もパネルで紹介しました。

これらの生きものや解説を見てもらった後、生きものを守っていくために自分にできることを考えて書いてもらう、意見集約コーナーを設けました。学校にエコスタックを作りたいなど、参加者の様々な意見が見られました。

年配の方はゲンゴロウやタガメなどの昔見られた生きものを懐かしんでいる様子が、小さなお子さんは実際に見たことのない生きものに触れて楽しんでいる様子が伺え、幅広い年代の方に見てもらうことができました。

⑥団体対応

当公園では、校外学習をはじめとする学校などの団体の積極的な受け入れを行っています。

今年度の団体対応数は124団体6,595人で、平成24年度に比べると5団体減少はしたものの、対応者数は203人の増加となりました。内訳としては保育園や幼稚園の利用が減少したものの、介護施設や小学校の利用が増え、1回あたりの利用者数が多いため全体的には利用者数が増えたと思われます。また例年通り、出張展示によるPR活動、解説活動を行う機会がありました。

来年度も積極的に団体対応の受け入れを行っていくために、引き続きホームページにおけるPRの強化などを行っていく方針です。また出張授業プログラム集を充実させるなど、出張授業に関しても重点を置いていく方針です。

出張展示の詳細については「6）広報活動」に記載します。

表-13 団体対応の実施状況

| 月 | 回数 | 大人 | 子ども | 計 | | 団体数 | 大人 | 子供 | 計 |
|-----|-----|------|------|------|-----------|-----|------|------|------|
| 4月 | 3 | 13 | 37 | 50 | 養護学校 | 10 | 96 | 0 | 96 |
| 5月 | 17 | 137 | 109 | 246 | 保育園・幼稚園 | 48 | 153 | 1219 | 1372 |
| 6月 | 11 | 1077 | 1245 | 2322 | 活動団体 | 8 | 67 | 23 | 90 |
| 7月 | 14 | 133 | 127 | 260 | 自治体 | 1 | 6 | 4 | 10 |
| 8月 | 7 | 55 | 115 | 170 | 介護施設 | 26 | 332 | 0 | 332 |
| 9月 | 12 | 428 | 727 | 1155 | 出張展示 | 8 | 1616 | 1933 | 3549 |
| 10月 | 8 | 26 | 238 | 264 | 小学校(園内対応) | 10 | 53 | 780 | 833 |
| 11月 | 21 | 343 | 838 | 1181 | 小学校(出張授業) | 3 | 14 | 255 | 269 |
| 12月 | 14 | 67 | 353 | 420 | 中学校 | 5 | 0 | 18 | 18 |
| 1月 | 4 | 16 | 214 | 230 | 高校 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 2月 | 7 | 22 | 151 | 173 | 大学 | 5 | 26 | 0 | 26 |
| 3月 | 6 | 46 | 78 | 124 | 外国 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 計 | 124 | 2363 | 4232 | 6595 | 計 | 124 | 2363 | 4232 | 6595 |

・小学生未満の対応（幼稚園・保育園）

今年度も近隣保育園3園により通年利用がありました。対応の内容としては、昨年度の対応内容を基準に、各園の状況に合わせて実施しました。具体的には、4～9月頃に子どもが関心を持ちやすい昆虫探しを中心に行い、子どもが成長するにつれ徐々に植物や自然環境を題材にしたプログラムを実施するようにしました。また、3園の内1園に関しては4歳児クラスも参加したプログラムを実施し、次年度からの対応を滑らかにできるよう保育園と連携して取り組みました。今後もさらに充実したプログラムを提供していく方針です。

幼稚園の対応は5団体ありました。当公園では毎年リピートして利用していただいている団体が多く、利用者に満足いただけているものと思われます。また区外からの利用も多く、小さい子どもが自然に触れ合うことのできる貴重な場として、今後も需要があると思われます。引き続き利用団体に合わせたプログラムを提供することで、満足度の高い対応を行っていきたいと考えています。

保育園、幼稚園向けプログラムの事例紹介（一部）

「春の生きものさがし」

実施日：5月24日（金）

通年対応の第1回目となる今回は、公園紹介と生きもの探しを行いました。まずはスライドを使用し園内で見られる生きものなどを紹介しました。その後草地にて、生きもの探しを行い、捕まえた生きものをスケッチしてもらいました。今回はテントウムシを捕まえた子が多く、模様や足の数など、じっくり観察して絵に描いている様子が伺えました。

「ザリガニ調べ」

実施日：6月6日（木）

園内ため池でのザリガニ釣り、ザリガニの観察を行いました。まずスライドでザリガニの生態やつり方のポイントを伝えたと、ため池での釣りを行いました。当日は少し気温が低かったのですが、園児の半分くらいがザリガニを釣ることができました。その後館内でじっくりザリガニを触る時間を持ちました。ザリガニを触ったことがないため怖がっている子どもが多くいましたが、終わる頃には「ザリガニと仲良くなれたよ」という声を聞くことができました。

「どんぐりクラフト」

実施日：10月30日（水）

秋の代表的な自然物であるどんぐりを使って、コマ作りをしました。どんぐりについてスライドで解説した後、実際に園内に出てどんぐり拾いをしました。大きさや形の違う様々などんぐりの中から2つを選び、コマ作りに用いました。ハンドドリルを使ってどんぐりに穴をあけるという作業は園児には少し難しかったようですが、すぐに自分のコマを作り、回して遊んでいました。自分で拾ったどんぐりから作ることで、自分の作成したものに愛着をもって遊ぶ様子が伺えました。

「自然素材で楽器づくり」

実施日：2月21日（金）

園内で伐採したハギの枝を使った楽器づくりを行いました。初めに木や石など園内の様々なものをハギの枝で叩き、どんな音がでるのかを楽しみました。その後、ハギの枝をヒモで結び合わせて完成させた楽器をみんなで鳴らしました。子どもたちは方結びに苦戦していましたが、叩いたり、こすったりと鳴らし方によって出る音が違うことを発見して、完成した楽器を楽しんでいました。

・小学校・中学校の利用

今年度の小学校の利用は延べ13回でした。昨年度に引き続き、近隣小学校では、1年生による年間4回の利用があり、1年を通して自然の様子の違いを理解するプログラムを行いました。またその他の小学校へは、綾瀬川の水調べや季節の自然を感じるための自然発見ビンゴなどのプログラムを実施しました。その他、出張授業を3回実施しました。

中学校は、職場体験として2校の利用がありました。

小中学校向けプログラムの事例紹介（一部）

「夏の生きもの探し」

実施日：9月10日（火）

年4回対応の2回目となる今回は、夏の園内の様子の観察と、生きもの観察を行いました。ワークシートを用いながら行った園内の観察では、バッタが大きくなっていたり、前回の春の自然の様子との変化を感じてくれていたようです。また生きもの観察では、自分たちで見つけた生きものをしっかりスケッチしてくれて、夏に見られる生きものに興味をもってくれたように感じられました。

「自然発見ビンゴ」

実施日：10月31日（木）

ビオトープ公園の紹介スライドを行った後、園内の自然の様子を感じてもらうため、自然発見ビンゴを実施しました。目だけではなく、耳や鼻など五感を使ってもらう内容としており、自分たちの感覚を使って自然に触れ合っている様子でした。また葉にインクをつけて紙に写す葉っぱスタンプも実施しました。いろいろな形の葉があることに驚きながら、楽しそうに行っていました。

「職場体験」

実施日：9月10日（火）、9月11日（水）

区内中学校の生徒4名が、職場体験で来園しました。解説員業務の体験ということで、生物の飼育作業やイベント準備、環境管理作業としての草刈など、幅広く業務を体験してもらいました。参加した生徒からは、「多くの生きものに触れることができ楽しかった」という感想を聞くことができました。

・大学の利用

今年度は4団体への対応を行いました。昨年度に続き、大学の環境サークルの利用があり、公園の概要やビオトープ管理についての紹介を行いました。また他の都内大学の学生の利用もありました。今後も積極的に大学生への教育支援を行っていきたいと考えています。

「ビオトープについて」

実施日：5月25日（土）

ビオトープ公園の概要をスライドで紹介したあと、園内のガイドを実施しました。ビオトープとしての管理手法や、来園者に対する解説手法について主に説明を行いました。小さい子どもに解説する際の工夫や、エコスタックに関してなど、自分たちのサークル活動で実践に役立てようという気持ちで、熱心に質問をしている様子が印象的でした。

・特別支援学校、高齢者福祉施設の利用

今年度も近隣の特別支援学校や区内の高齢者福祉施設の利用があり、園内やあやせ川清流館の見学をされていました。なかでも高齢者福祉施設の利用が昨年度に比べて20回と、大幅に増加しました。1回の利用は30分程度が多く、館内で生体展示の解説を行ったり、クラフトを実施したりしました。今後

も、短時間の利用でも楽しんでいただけるようなプログラムを実施していきます。

「落ち葉アート」

実施日：11月26日（火）～12月12日（木）のうち10日間

全10日間にわたって、約10名ずつ来園され、毎回同様の対応を実施しました。園内にあるさまざまな色や形の落ち葉を用いて、フォトフレーム状に仕立てた落ち葉アート作りを行いました。落ち葉を数枚選んでもらい、電子レンジで脱水処理したあと、黒い紙の上に好きなように並べ、ラミネートしました。とてもきれいな作品が出来上がり、参加者にはご満足いただけた様子でした。

・自治体、活動団体の利用

今年度は9団体への対応を行いました。昨年度に比べると自治体の利用が毎年利用いただいていた1団体のみで、9団体の大幅減となりました。しかし、活動団体は昨年度と同程度の利用をいただいています。

「浄化施設について」

実施日：7月25日（木）

自治体の職員が水質調査などの実演を行った後、解説員による解説を行いました。綾瀬川の水質と桑袋浄化施設の仕組みについてスライドで解説した後、実際に浄化施設の見学を行いました。一日あたりどのくらいの水が浄化されるのか、浄化施設内に入っている石の大きさなど、参加した子ども達からいくつか質問がありました。

⑦展示（館内・館外）

・館内展示

展示はインタープリテーションとして以下の目標をもとに作成しました。

①情報の発信と受信の機能を持つ展示

野外に出る前の必要な情報、自然と親しむための工夫を提供するとともに、利用者からの情報も展示に活用します。

②きっかけを与える展示

知識のみを伝えるだけではなく、自然の見方やとらえ方、自然との接し方など、気づき、きっかけを提供することを目指します。

③野外へと誘導する展示

野外での自然体験に誘導するための導入、あるいはまとめとして位置づけます。つまり、インタープリターによるガイドウォーク、野外展示や野外解説板と連携しやすい展示とします。

④清流館内へと誘導する展示

来園者に、当公園がどういった公園なのか、どのような活動ができるのか、利用方法を知っていただくために館内に足を運んでもらうことを目的とします。

来館者の多くはザリガニ釣りを目的に訪れますが、ザリガニだけでなく、他にも公園内の生き物や自然の魅力を伝えられるように、新規展示の作成を行いました。

来館者の多くの方が生体展示に興味を示し、生体の解説を通して園内の環境や生き物同士のつながりを解説する機会が多くありました。

当公園の来館者の特徴としてリピーターが多いこともあり、今後も新規展示を作成し、年間を通して頻繁に展示の入れ替えをすることで展示物のマンネリ化を防ぐとともに、全体として統一感のある展示空間を構成していくことが必要だと考えています。

新規展示

○常設「エキスパートレンジャー活動紹介」

毎月1回行っているエキスパートレンジャー活動の紹介展示を作成しました。毎回の活動で生きもの調査を行い、その結果を地図上にまとめます。その成果を展示として毎月更新していきます。大人から子どもまで、足を止めて見ている様子が伺えました。また子どもからは、こんな活動ができてうらやましいという声がかかれ、ビオレンジャー活動に対する関心を高めるきっかけになりました。

○常設「プラチナレンジャー活動紹介」

プラチナレンジャーの活動を紹介する展示を作成しました。過去に作成したザリガニ調べの結果や、今年度から新規で始めた、ビオレンジャー新聞、野鳥図鑑、季節のみどころ図鑑の4つの活動を紹介しました。子ども達からは、「こんな活動ができていいな」という声がかかるなど、レンジャーたちの目標になりました。

○常設「ピオトープ公園の生きもの紹介」

特別企画展示の終了と合わせて12月3日より常設展示を設置しました。23年度に実施した特別企画展示の内容で、園内の環境ごとに、それぞれ見られる生きものを紹介しました。またそれぞれの環境で行っている環境管理方法もパネルで紹介しました。生体展示の数は少なくなりましたが、園内の代表的な生きものを紹介でき、来園者の方が楽しんでいる様子が伺えました。

○季節展示「ロゼットってなに？」

今年度新たに作成した季節展示で、植物の冬越しの形態であるロゼットを紹介しました。パネルによる解説と、実際園内で見ることのできるロゼットの乾燥標本を展示しました。展示を見て終わりではなく、園内でロゼットを探す活動につなげることもでき、植物を観察するよいきっかけとなりました。

○季節展示「あっ！カワセミだ！」

園内で見ることのできる野鳥のなかでも、人気の高いカワセミについての展示を作成しました。カワセミの1年の生活の様子など、どちらかという大人向けの内容ですが、子どもにも興味を持ってもらえるよう、カワセミが見られた時間を調査してもらい、その結果を展示に反映させるという参加型の展示にもしてあります。来館者の方からの反応もよく、いつ頃がよく見られますか？など、カワセミに対する興味の強さが感じられる展示となりました。

○ハンズオン「生きものマトリョーシカ」

園内で見られる生きものについて、食べる・食べられるの関係をマトリョーシカで遊びながら体験する展示をつくりました。草、バッタ、カナヘビなどの生きものを描き、マトリョーシカが食物連鎖の順に並ぶようにしました。小さいお子さんも楽しみながら手にとって遊んでいる様子が伺え、生きもの同士のつながりに興味をもってもらう1歩として、とても有効なハンズオンとなりました。

・野外展示

野外展示については、以下のような機能を考え、設置しました。

①自然解説に関する展示

- ・自然の見方、楽しみ方の紹介
- ・身近な自然の利用方法や保全方法の提案

②施設の利用に関する展示

- ・あやせ川清流館や浄化施設、トイレなど各施設の周知と誘導
- ・利用方法の周知（禁止事項やルールなど）

来園者の方への様々な情報提供の手段の一つとして、野外展示を設置しました。これにより、区民と共に育てていく公園であること、ボランティア活動だけでなくイベントなど様々な形で公園の自然管理に関われることを来園者に伝えられる効果も見込めます。

また野外展示は公園を楽しんでもらうためのきっかけや、あやせ川清流館までの誘導として有効に活用できるものですが、展示物ばかりになると景観が損なわれるため、設置する際は展示物全体の統一感を出す必要があります。

○常設「バス時刻表」

清流館入口に出しているバスの時刻表案内を新しくしました。以前まで出していたものと内容は変わりませんが、風雨にさらされて古くなっていたものを、刷新しました。駅からバスを利用して来園される方も多く、きれいになったね、といった声もきかれました。

○野外掲示板の充実

園内に設置されている「ふれあい掲示板」への情報掲載を充実させました。主な掲示内容は毎月のイベント情報や発展型イベントのポスターなどです。ザリガニ釣りへの参加のインフォメーションも掲示しているため、案内を見て館内へ足を運ぶ方も多く見られました。

近隣住民の中には公園を毎日の散歩コースにされている方も多くいるので、そうした方々に向けて情報の更新は随時行っていきたいと考えています。

○手のひらビオトープ

平成 24 年度の特別展示として作成し、常設展示の一部として展示を続けました。今年度は新たに、ブルーサルビア、ヒャクニチソウ、ペンタスの 3 種で構成された寄せ植えの鉢を 5 月より設置し、訪花性昆虫の利用を展示としてみせる試みを行いました。本展示は、あやせ川清流館の入り口にあり来園者の目につきやすく、ビオトープネットワークという難しいテーマを身近なものとして伝える機能を果たしています。

○シジュウカラの巣箱

園内に 4 か所設置しているシジュウカラの巣箱ですが、1 年が経過し巣箱の利用状況を確認するとともに、巣箱内の掃除を行い、壊れているものは修理しました。

今年度、設置した 4 か所のうち 2 か所でシジュウカラが利用した形跡が見られました。巣箱の利用状況はビオレンジャーの活動でも調べており、解説活動につなげやすい展示の一つです。

○コウモリハウス

今年度実施した発展型プログラムで作成したものを、園内に 3 か所設置しました。来園者の方から、あれは何ですか？と聞かれることも多く、コウモリについての解説につながりました。現在はコウモリハウスに関する説明が出せていない状態なので、今後は野外解説板を設置するなどして、来園者の方への情報発信を行っていききたいと考えています。

○ビオレンジャー クイズボックス

昨年度に引き続き実施したエキスパートレンジャー定例活動内でクイズを作成し、野外に設置しました。年 4 回、その季節に合わせた問題を考え、随時更新しました。

来園者の中でも子どもの利用が多くみられ、子ども達自身の活動意欲向上にもなり、またビオレンジャー自体のPR効果も期待できます。

○ビオトープ公園紹介

清流館へ続く園路の脇に、ビオトープ公園の紹介パネルを設置しました。ボランティア活動や自然体験プログラムなど、公園としての特色を展示しています。もともと特別展示の際に導入となるパネルを設置していた場所で、来園者の方の目につきやすいところです。実際立ち止まって見てくれる方がおり、より多くの方にビオトープ公園を知ってもらおうよいきっかけとなりました。

○エコスタック

エコスタックとは、枝や石、草などの自然物を積み上げ、積み上げたものの空隙が生きものすみかになる工夫のことです。当園では、園内に生きものすみかを作る取り組みの一つとして、エコスタックの設置を行っています。設置以来、アオダイショウやカナヘビ、コオロギ類など、多種多様な生きものすみかになっている様子が観察されています。今年度は、補修などのメンテナンスや野外解説板の設置を行いました。

⑧図書コーナー

当園の図書コーナーでは以下のテーマを中心として図書を収蔵しています。

- ・足立区内の河川（特に、綾瀬川、伝右川、毛長川）、河川の浄化
- ・ビオトープ、自然環境復元
- ・外来種（帰化種を含める）

今年度は専門分野に分かれていて調べやすいハンドブックの充実を目指しました。入荷した本は新刊コーナーに配置し来館者に手に取りやすいようにしました。

また、生体展示コーナーにその生き物関連の本を置くことで、その生き物の名前や生態をすぐ調べられるようになりました。来年度は来館者の方に図書をより活用してもらえよう配置を再検討し、季節によって配架する本を変えていく予定です。

⑨教材開発（ワークシート、スライドなど）

当園で展開するプログラムにおいて、環境教育の効果を引き出すためには、地域固有のメッセージをもった教材やテキストの開発も必要となります。また、身近な自然や生き物を考えるための標本や模型、映像ソフトなどは来園者へのインパクトも大きく、解説効果を高められると考えています。

・ワークシート

ワークシートはプログラムや窓口対応の中で随時作成し利用してきました。来園者のニーズや対象に応じて解説員が適切なワークシートを判断し提供しています。

セルフガイドは季節に応じたものを、常時パンフレットラックに並べていますが、持ち帰る来館者の姿も多く見られました。

・スライド

スライドは主に団体対応や導入型、発展型プログラムを行うなかで随時作成し、利用してきました。団体対応などでは、初めて公園に来園する方も多いため、主に公園の概要や浄化施設の説明や生き物などの紹介を扱うことが多くなります。

開園当初に比べて樹木が生長するなど、自然の様子も変化してきました。そうした環境の経年変化は団体利用で来た小学生などに見てもらおうと「こんなに変わったんだね！」と驚きの声も聞かれました。

[今年度作成した主なスライド] 生物多様性・ビオトープをテーマにしたスライド

- ・プログラム：野鳥のごちそういただきます！・野草でつくろう！光のインテリア・つくってみよう！
コウモリハウス・ため池のかい掘り体験・ハスの花托でハンカチを染めよう・ハス掘り体験・身近な外来種を食べようなど
- ・団体対応：区内小学校、区内幼稚園など
- ・未就学児を対象：「ダンゴムシクイズ」「テントウムシクイズ」「むしさがしのれんしゅう」など

・レンタルグッズ

来園者が各々でも自然体験を楽しめるように、以下の物品の貸し出しを行いました。

ショウリョウバッタ調査（虫かご・ストップウォッチ・帽子）、ザリガニしらべ（釣り竿・バケツ・帽子）、ため池の野鳥調査（双眼鏡・冊子）、ヤモリのえささがし（虫かご・プラスチックコップ・帽子）

4) 区民協働型運営の展開

① 区民協働型運営の概要

近年、自然環境に対する区民の意識は高まり、地域の自然を大切にしたい、失われた自然を取り戻したいというニーズが増えています。こうした社会的ニーズに応えるためには、公園の自然環境の整備と同時に、地域住民に当公園への愛着を感じていただき、その存在意義と適切な環境管理の必要性を理解していただくことが不可欠です。そのためにも区と区民が連携しながら公園の管理運営を行うことが求められます。

これまで桑袋ビオトープ公園では、区民協働型運営の一つとして、区民に園内のビオトープ的管理を行ってもらう公園管理ボランティアを実施してきました。現在では公園管理ボランティア活動は、公園管理を中心にイベントの補助など、大きな役割を担って成果をあげています。

公園管理ボランティアが定着した今、次の段階として更に多くの区民が公園の運営に関わるために、多様な区民協働形態が必要となります。子どもから高齢者まで、様々な年代、生活スタイルをもつ公園利用者の区民協働を実現するため、区民協働のあり方もそれぞれの生活スタイルに合った多様な取り組みが求められます。(図-6)

これらを受け今年度は、「公園管理ボランティア」活動を軸に、修了後の活動となる「ビオトープ公園サポーター制度」、「提案型ボランティア制度」を展開しました。また、子ども向けの「ビオトープ公園ジュニアレンジャー活動」、ザリガニ釣りなどの「飛び込み型環境管理ボランティア」を実施しました。

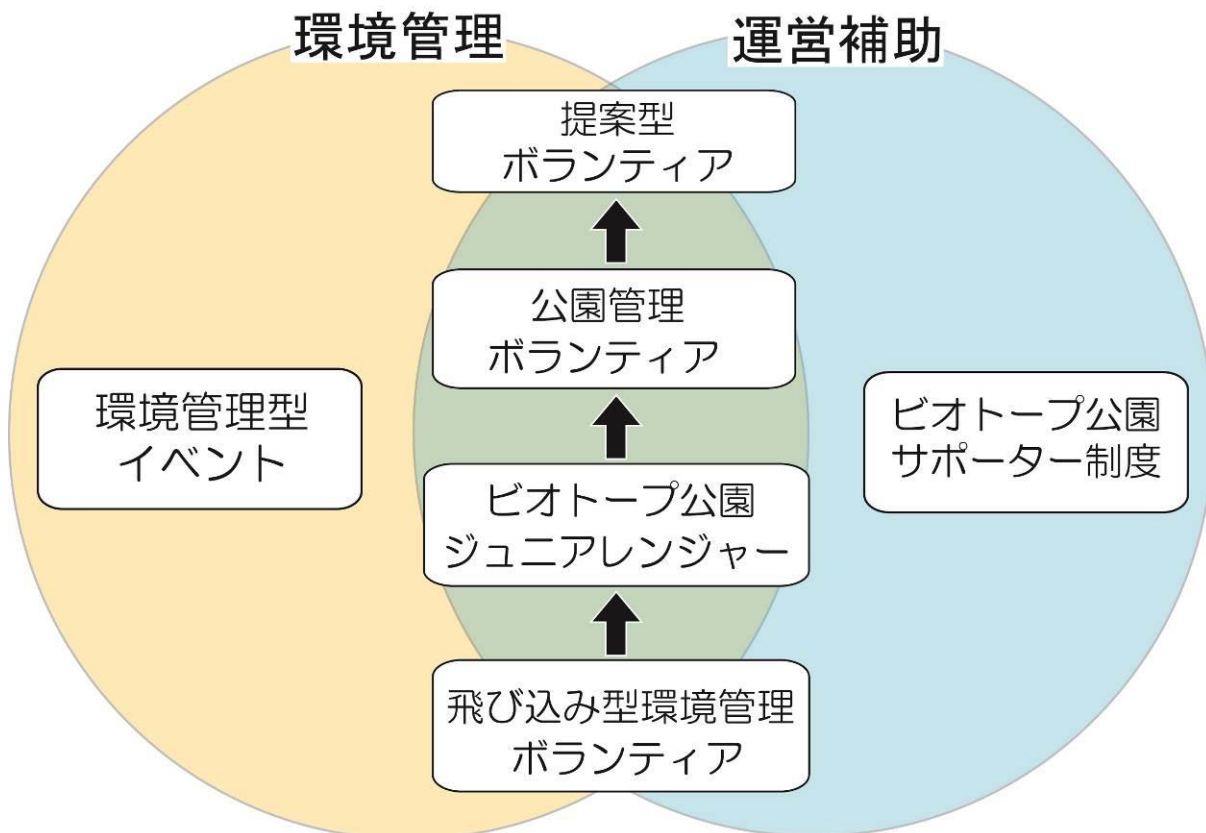


図-6 25年度の区民協働型事業イメージ

②公園管理ボランティアの活動とその成果

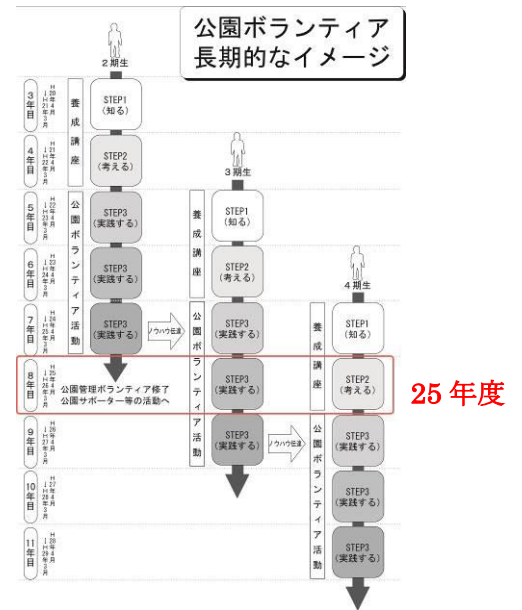
平成 17 年度 12 月より開始した区民協働型運営の中心となる活動です。公園管理ボランティアは、多様な生物の生息空間を創出するため、特に水辺の環境整備を中心に活動しています。年間の活動計画は、ボランティア自身で立てた上で足立区と調整し、決定しています。公園管理ボランティアの参加には条件があり、公園管理ボランティアの趣旨を十分に理解した上で同意書を取り交わし、2 年間の養成講座（STEP1、STEP2）を受講した後に、3 年間の公園管理の実践期間（STEP3）に移行します。

今年度は 3 期生が 4 年目、4 期生が講座受講の 2 年目となり、計 15 名の方が活動を行いました。

| 公園管理ボランティア事業のプログラム | |
|------------------------|---|
| STEP 1 (1 年目) | <p>〈知る〉 生き物に触れ、親しむ→環境を知る</p> <p>公園管理に必要な基礎データの収集方法（モニタリング調査）について学ぶ。</p> |
| STEP 2 (2 年目) | <p>〈考える〉 生き物と人と環境について考える・把握する</p> <p>調査結果を基に、公園管理の考え方、管理計画について学ぶ。</p> |
| STEP 3 (3 年目から 5 年目まで) | <p>〈実行する〉 生き物との共生を実践する</p> <p>実際に公園管理をする。</p> |

25 年度の 4 期生のステップ

25 年度の 3 期生のステップ



表—1 4 公園管理ボランティア登録者内訳

| 期生 | 男 | 女 | 計 | 備考 |
|----|----|---|----|------------|
| 3期 | 7 | 0 | 7 | うち区内在住者 5名 |
| 4期 | 7 | 1 | 8 | うち区内在住者 7名 |
| 計 | 14 | 1 | 15 | |

(2) 3期生の活動とその成果（活動4年目）

3期生は今年度で活動開始から4年目、実践期間2年目となりました。

年間の活動としては、これまで継続して行ってきた、ため池やハス田周辺の水辺の環境管理活動を中心に行いました。また、9月には「ため池のかいぼり」10月には「どろんこハス掘り体験」のイベント補助として参加をしました。

◆水辺の環境管理作業

今年度の5、6月はアオミドロの発生量が少なく、その分ウキヤガラ刈り取りなどを行いました。また、平成24年度の冬にハス田のコンクリート柵を撤去した影響で、ハスの発生量が多く開放水面の確保が難しい状況になったので8月にハスの葉の刈り取りも行いました。

11月以降は木の剪定やガマやウキヤガラなどの草刈作業を行いました。

今年度は月に1回堆肥の切り返しを行いました。その結果例年より早いペースで副産物の堆肥化が進んでいたようでした。

◆樹木の定例観察

今年度も樹木の定例観察を第2週に行いました。今回の観察木はナガバヤナギとし、定点と近くからの写真撮影・幹の生育の様子や葉の様子を観察し観察シートに記録をしました。管理作業でも剪定や抜根を行うことのあるヤナギですが、その生長過程を1年を通して観察してみることで花芽のつき方や落葉の季節を体感しながら知ることができたようでした。

(3) 4期生の活動とその成果（活動2年目）

4期生の参加者の特徴としては、区内在住者だけではなく区外からの参加者もいること、20代～60代と幅広い世代がいることが挙げられます。

ボランティア2年目となる今年度の講座では、ビオトープ管理の具体的な手法や、考え方について学ぶだけでなく、今後の管理活動について自分たちで考える機会を多くもちました。次年度からは3期生と合同での活動期間に入りますが、次年度の活動に向けても意欲的な態度が見られています。

(4) 課題と展望

今年度は3期生が活動の中心となり、各月第3週には4期生がOJTとして作業に加わるという活動の形でした。3期生だけとなる第2週には参加者数が足りず、予定していた作業が終わらないこともありました。次年度には4期生も活動期間に移行し毎回の作業に参加するため、人員は十分に確保されることが予想されますが、計画作成の段階で、各回必ず終わる分量の作業を計画しておくことが重要であると考えます。

また、次年度は3期生が5年目となり活動最終年となるため、4期生へのノウハウの引継ぎを強く意識して活動を進めていく予定です。

表—15 公園管理ボランティア 3 期生参加状況

| 実施日 | テーマ | 参加者 |
|--------|-----------------------|-----|
| 4月13日 | 年間活動計画作成 | 3 |
| 4月20日 | ボランティア調整会 | 3 |
| 5月11日 | ウキヤガラの刈り取り | 3 |
| 5月18日 | アオミドロの除去、堆肥の切り返し、ガマ刈り | 4 |
| 6月8日 | ミソハギ、ハンゲショウ周囲の刈り取り | 4 |
| 6月15日 | アサザの掘り下げ、堆肥の切り返し | 5 |
| 7月13日 | ウキヤガラの刈り取り、カマ磨ぎ | 4 |
| 7月20日 | 他施設見学会 | 3 |
| 8月10日 | ハスの刈り取り | 3 |
| 8月17日 | ハスの花托取り、堆肥の切り返し | 2 |
| 9月14日 | ため池のかいぼりイベント補助 | 4 |
| 9月21日 | ウキヤガラの刈り取り、ハスの刈り取り | 3 |
| 10月12日 | ハスの刈り取り | 4 |
| 10月19日 | どろんこハスほりイベント体験補助 | 3 |
| 11月9日 | 浮島の管理 | 3 |
| 11月16日 | 他施設見学会 | 4 |
| 12月14日 | ヤナギの剪定、堆肥の切り返し | 5 |
| 12月21日 | 倉庫の片づけ、ビオトープ講座 | 4 |
| 1月11日 | 新年懇親会 | 4 |
| 1月18日 | ウキヤガラの刈り取り、巣箱の設置 | 4 |
| 2月8日 | ガマの根茎取り | 3 |
| 2月15日 | 1年の振り返り | 2 |
| 3月8日 | 26年度活動計画作成 | 4 |
| 3月15日 | 26年度活動計画作成 | 3 |
| 計24回 | | 84 |

表—16 公園管理ボランティア 4 期生参加状況

| 実施日 | テーマ | 参加者 |
|--------|-------------------|-----|
| 4月13日 | 講座「ビオトープ管理概論」 | 8 |
| 4月20日 | ボランティア調整会 | 4 |
| 5月11日 | 講座「水質調査法」 | 7 |
| 5月18日 | ガマの刈り取り、堆肥切り返し | 3 |
| 6月8日 | 講座「抽水、浮葉、沈水植物の管理」 | 6 |
| 6月15日 | アサザの掘り下げ、堆肥の切り返し | 1 |
| 7月13日 | 講座「身近な外来種問題」 | 6 |
| 7月20日 | 他施設見学会 | 2 |
| 8月10日 | ハスの刈り取りと裁断 | 4 |
| 8月17日 | ハスの花托取り、かいぼり打ち合わせ | 2 |
| 9月14日 | ため池のかい掘り体験補助 | 7 |
| 9月21日 | 講座「循環型の公園管理について」 | 2 |
| 10月12日 | 講座「足立の自然史をたどる」 | 5 |
| 10月20日 | どろんこハス掘り体験補助 | 5 |
| 11月9日 | 講座「生物多様な公園づくり」 | 4 |
| 11月16日 | 他施設見学会 | 4 |
| 12月14日 | 講座「危険予測・安全管理」 | 6 |
| 1月11日 | 新年懇親会 | 4 |
| 1月18日 | ウキヤガラの刈り取り | 6 |
| 2月8日 | 講座「合意形成と年間計画の立て方」 | 3 |
| 3月8日 | 26年度年間計画作成 | 6 |
| 3月15日 | 26年度計画作成、堆肥の袋づめ | 3 |
| 計22回 | | 98 |

③ビオトープ公園サポーター制度

ビオトープ公園サポーター制度は、公園管理ボランティア修了者が気軽に参加できる活動として行いました。今年度もしょうぶまつりなど、区内で行われる催し物での出張PRで行う公園紹介補助や、かい掘り体験などのプログラムの補助を行っていただきました。今年度は公園管理ボランティアを卒業した2期生も加わり、公園の魅力を地域の人に伝えようという気持ちを持って活動に参加している様子が見られました。

表—17 ビオトープ公園サポーター参加状況

| 実施日 | テーマ | 参加者 |
|---------|---------------------|-----|
| 6月8日、9日 | しょうぶまつり公園PR補助 | 2 |
| 8月5日 | 親子ふれあいフェスティバル公園PR補助 | 2 |
| 9月14日 | ため池のかいぼりイベント補助 | 1 |
| 10月19日 | どろんこハスほり体験イベント補助 | 1 |
| 計4回 | | 6 |

④提案型ボランティア制度

提案型ボランティア制度は、公園からの提案ではなく希望者からビオトープ公園の管理、運営に関わる新規の自主的活動を提案できる、公園管理ボランティア修了者向けの制度です。今年度は公園管理ボランティア2期生修了者の4名が、「にきの会」というグループを立ち上げ、サンクチュアリ内の通路整備として、通路の範囲内の木の枝や実生の除去などを行いました。公園管理ボランティアよりもより

自主性が求められる活動となり、参加者は責任感とやりがいを感じている様子でした。来年度も継続して活動を行い、サンクチュアリ環境維持のため、活動範囲を広げて行う予定です。

表一18 提案型ボランティア「にきの会」参加状況

| 実施日 | テーマ | 参加者 |
|--------|-----------------------|-----|
| 4月25日 | 今年度計画の確認・現場見学と作業範囲の確認 | 4 |
| 5月16日 | サンクチュアリの通路の整備 | 4 |
| 6月20日 | サンクチュアリの通路の整備 | 3 |
| 7月18日 | サンクチュアリの通路の整備 | 3 |
| 9月19日 | サンクチュアリの通路の整備 | 4 |
| 10月17日 | サンクチュアリの通路の整備 | 3 |
| 11月21日 | サンクチュアリの通路の整備 | 4 |
| 12月19日 | トウネズミモチ実生の引き抜き | 2 |
| 1月11日 | 新年懇親会 | 2 |
| 1月16日 | 来年度計画作成・実生の裁断 | 3 |
| 1月30日 | 来年度計画作成 | 3 |
| 2月20日 | 来年度計画作成・サンクチュアリ通路の整備 | 4 |
| 3月20日 | 来年度計画の確認 | 2 |
| 計13回 | | 41 |

⑤桑袋ビオトープ公園ジュニアレンジャー

(1) ビオレンジャー活動について

桑袋ビオトープ公園ジュニアレンジャー（以下ビオレンジャー）は、ビオレンジャーとして登録した子どもにスタンプカードを作成し、体系的な自然体験プログラムとなっているレンジャー活動を行うごとにスタンプがたまっていく仕組みです。またレンジャーにはレベルが設定されていて、一定回数スタンプがたまると、記念品をもらえると共に、レンジャーレベルをアップさせるためのテストを受けることができます。これにより、公園の事業に対する子どもの参加意欲を高めるとともに、公園利用時のモラルの育成をすることができました。

今年度はビオレンジャー登録者数が 833 人になり、り、現在 3 名がそれぞれ自分の興味に合わせたプログラムを作成し実施しています。テレビ東京「すなっぷ」にビオレンジャーが取り上げられ、プラチナレンジャーのうちの一人が取材を受けました。

また、今年度からの新しい取り組みとしてビオトープ公園に団体として訪れた小学生に「ビオレンジャー候補生チケット」を配付しました。

テレビ取材やビオレンジャー候補生チケットを通してビオレンジャーの知名度が上がっていくことが期待されます。

来年度はビオレンジャーカードの管理の効率化のためにもビオレンジャーカードの電子化に向けてノウハウの習得や情報の整理を行っていく予定です。

表一18 レンジャー登録者数

| レベル | 22年度 | 23年度 | 24年度 | 25年度 | 増数 |
|------|------|------|------|------|-----|
| 候補生 | | | | 686 | 686 |
| グリーン | 405 | 574 | 652 | 765 | 113 |
| シルバー | 16 | 35 | 52 | 50 | -2 |
| ゴールド | 2 | 2 | 6 | 12 | 6 |
| プラチナ | 2 | 3 | 4 | 6 | 2 |
| 計 | 425 | 614 | 714 | 1519 | 805 |

表—19 プラチナレンジャー活動

| | |
|-----------|--------------------------------------|
| ビオレンジャー新聞 | ビオレンジャープログラムを体験し、その内容をレポートする新聞を作成する。 |
| ビオトープ季節図鑑 | 四季によってテーマを分けて園内で見られる自然物の見分け方を展示する。 |
| ビオトープ野鳥図鑑 | 園内で見られた野鳥をイラストで紹介する図鑑を作成する。 |

表—20 レンジャー活動一覧

| | 活動タイトル | 活動内容 |
|------------|------------------|---------------------------------|
| 自然 しらべ | シジュウカラの巣箱調べ | 園内に設置しているシジュウカラの巣箱の使用状況を調査する |
| | ヤモリのエサとり | 館内で飼育しているヤモリのエサとなる小動物を採集する |
| | アメリカザリガニしらべ | アメリカザリガニを採取し、オスメスの匹数や大きさを調べる |
| | ためいけのとりしらべ | ため池に来る冬鳥の種類、数をカウントし、記録する |
| | セミのぬげがら調査 | 園内のセミの抜け殻を見つけ、種類と数のカウントをする。 |
| | ビオトープ公園野草しらべ | 園内に咲いている野草の花を記録し、館内の展示に反映する |
| | ショウリョウバッタしらべ | ショウリョウバッタを採取し、大きさを測定し、館内展示に反映する |
| | ヒラタケの水やり体験 | サンクチュアリ内で生育しているシイタケの原木に散水をする。 |
| | 解説員 の仕事 体験 | 水槽のそうじ体験 |
| パンフレット整理体験 | | 館内で配布しているニュースレター等の配布物を整理する |
| クラフト道具整理体験 | | 色鉛筆など、館内のクラフトで使用する道具の整理を行う |
| クラフト素材集め | | プログラム等で利用するクラフトの材料となる木の実などを採集する |

(2) 定例活動について

エキスパートレンジャーとは、グリーンレンジャー卒業試験に合格したシルバーレンジャー以上のビオレンジャーのみが参加できる活動です。

今年度は5月～3月までの11回にわたって「ビオトープ大調査」をテーマに季節ごとに見られる生き物や環境ごとに見られる生き物に焦点をあてて調査を行いました。

調査はワークシートを使用して行い、その結果はエキスパートレンジャー展示として来館者に伝わるように工夫をしました。来年度はプログラムの連続性を強め大きな役割を担わせることで、もっとレンジャーたちに継続をして参加してもらえよう活動を行っていきます。

表—21 エキスパートレンジャー活動一覧

| 実施日 | 内容 | 数 |
|-------|---------------|----|
| 5月4日 | 探検ゲーム | 7 |
| 6月1日 | 園内の生きもの調査 | 3 |
| 8月3日 | 園内の生きもの大調査～夏～ | 2 |
| 9月7日 | エコスタックの生きもの調査 | 3 |
| 10月5日 | 園内の生きもの大調査～秋～ | 2 |
| 11月2日 | 土の中の生きもの調査 | 1 |
| 12月7日 | 大鷲神社調査 | 3 |
| 1月11日 | 野鳥大調査 | 1 |
| 2月1日 | 園内の生きもの大調査～冬～ | 1 |
| 3月1日 | 1年間の振り返り | 2 |
| | 合計 | 25 |

⑥飛び込み型環境管理ボランティア

ザリガニ釣り制度は、園内の水辺で増えすぎた外来種のアメリカザリガニの数を少しでも減らすため、公園利用者の協力を得るための区民協働型事業です。参加希望者には、解説員カウンターで受付をしてもらい、釣りざお、バケツ、活動用の帽子を貸し出します。とれたザリガニは持ち帰らずに、全て解説員に引き渡してもらいます。その後ザリガニは足立区生物園へ搬送し、大型魚のエサとして利用してもらいました。

平成 22 年度以降、アメリカザリガニの捕獲数は毎年減少傾向にあり、ザリガニ釣りによる個体数減少が示唆されています。平成 25 年度の成果として、通年で 4,112 人の来園者が参加し、4,578 匹のザリガニが駆除されました。

5) 環境管理業務

① ビオトープの基本概念

ビオトープとは、BIO（生き物）＋TOP（場所・空間）で、「生物群集が生息できるように環境条件を備えた地域」と定義づけられます。

近年失われつつある里山環境を取り戻そうと、都市部や市街地にビオトープが設置されています。里山環境は、もともと人々の生活に密着することで作り出された二次的な自然であることを考え合わせると、多くのビオトープ活動は必然的に人の手による管理作業を伴うことが前提となります。

・ 環境の再現、生き物の呼び戻しをめざす。

ビオトープ活動では、安易に生き物を持ち込む（人為的に導入する）のではなく、「以前その場所に存在していた環境を再現し、以前にその場所に生息していた生き物を呼び戻し、それらが定着しやすいように環境の維持管理を行うこと」が原則です。

・ 生態系における生産者の繁栄を目指す。

生態系ピラミッドの頂点に位置する生き物の存続には、下位に位置する生き物の存在が不可欠です。当初から生態系ピラミッド上位の高次消費者の定着を考えるのではなく、生態系ピラミッドの根底に位置する生産者の繁栄を心がける必要があります。そして、さらに、その環境にあった生物が定着し、豊かな生態系が維持されるには、長い時間と多大な努力が必要です。

・ 外来種問題

「外来種」は「在来種」に対する言葉であり、海外から日本に持ち込まれた種だけを示すものではありません。気候的、地形的に隔てられた他地域の生き物は、外来種と位置付けられます。外来種の持ち込みは、自然状態では起こらない様々な問題を引き起こし、地域生態系のバランスを崩しかねません。そこで、対策として「侵入の予防」「早期発見と対策」「定着している場合は駆除・封じ込め」の検討が望まれます。

② 当公園における環境管理の考え方

当公園は都市公園という性質上、「ビオトープ」であると同時に「公園」であることが求められており、これは環境管理を考える上での重要な要素になります。

環境管理においては、当公園を「ビオトープゾーン」と「公園ゾーン」に2分して考えています。

ビオトープとしての管理では、多様な生物の生育、生息に重点を置く必要があります。単一的ではなく多様な環境や植生区分がモザイク状に配置されることが理想的です。そのためビオトープゾーンの中を、さらに7つのゾーンに分け、それぞれに目標とする生態系を設定し、環境管理計画案を作成しました。

公園としての管理では、公園利用者にとって魅力的かつ安全に利用できる管理を優先する必要があります。区との協議の上「公園ゾーン」という分類を細分化し、「浄化施設北側斜面ゾーン」「芝生広場ゾーン」「外周ゾーン」「園路ゾーン」としました。

なお、各ゾーンの役割は完全に割り切るのではなく、ビオトープゾーンであっても公園的配慮を、公園ゾーンであってもビオトープ的配慮を相互に検討し、管理を行いました。

③ 実際の活動

環境管理作業については、①ビオトープの基本概念 ②当公園における環境管理の考え方を踏まえて、平成 23 年度に作成した「桑袋管理チェックシート」をもとに、区職員と調整を重ねながら、作業を進めました。

当公園のビオトープとしての環境管理は、平成 23 年度に引き続き今年度も PDCA サイクル (PLAN→DO→CHECK→ACT) に基づいて行いました。PDCA サイクルを一貫して解説員が行うことで、ビオトープとしての景観を考慮した管理作業を行うことができました。管理作業自体がビオトープ公園の重要な解説素材となっており、ビオレンジャー活動などと連携した活動を行うことができました。また、来園者からの要望・意見を反映させやすく、来園者にとっても快適な空間となるよう配慮した管理を行いました。

ゾーニングについては、園路を園路 (中央+縁)、園路 (バッファ)、園路 (林内)、園路 (ハス田) に分け、管理を行ないました。

実際に行った環境管理作業の作業については、表-22 をご覧ください。

・植生管理作業

植生管理作業については、ゾーニングごとの草刈り作業のスケジュールを立て、平成 25 年度初めに「作業行程表」を作成しました。(表-22) これに基づいて、毎月環境管理計画の見直しを行いながら、作業を行いました。

水辺の植生管理については、主に公園管理ボランティアの活動として行いました。

また、今年度に行った実際の植生管理作業は表-22 の通りです。

表-22 平成 25 年度 環境管理作業行程表

| ゾーン名 | 管理手法 | 単位作業日数 (日) | 作業工程の目安(回) | | | | | | | | | | | | 計 | 総作業日数 (日) | |
|-----------|----------------|---------------|------------|---------------------|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|-------|--------------|-----|
| | | | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | | | |
| 草地A-1低葎草地 | 草地A-1低葎1 | カマ+芝刈機 | 0.5 | 1 | 1 | 2 | 1 | 2 | 1 | | 1 | | | | | 9 | 4.5 |
| | 草地A-1低葎2 | | | 1 | 1 | 1 | 2 | 2 | | | | | | | | 7 | 3.5 |
| | 草地A-1園路 | 芝刈機 | 0.5 | 2 | 2 | 1 | 2 | 2 | 1 | 2 | | | | | 1 | 13 | 6.5 |
| | 草地A-1中葎1 | | | 1 | | | | | | | | | | | 1 | 2 | 2.0 |
| | 草地A-1中葎2 | 刈払機 | 1.0 | | | | 1 | | | | | | | | 1 | 2 | 2.0 |
| | 草地A-1中葎3 | | | | | | | | 0 | 1 | | | | | 1 | 2 | 2.0 |
| 草地A-2 | 草地A-2(集会所1) | 芝刈機 | 0.5 | | | 1 | | | | | | | | 1 | 2 | 1.0 | |
| | 草地A-2(集会所2) | | | 1 | 2 | 2 | 2 | 2 | 1 | 1 | | | | | 11 | 5.5 | |
| 公園ゾーン | 公園ゾーン(IBA-2) | 芝刈機 | 0.5 | 1 | 1 | 2 | 2 | 2 | 1 | 1 | | | | | 10 | 5.0 | |
| 草地B | 草地B1 | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 | 1.0 | |
| | 草地B2 | 刈払機+ノコギリ | 1.0 | | | | | | | | | | | | | | |
| | 草地B3 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 草地B4 | | | | | | | | | | | 1 | | | 1 | 1.0 | |
| | 草地B5(年1管理) | 刈払機+ノコギリ | 1.0 | | | | | | | | | | | 1 | 1 | 1.0 | |
| 林地A | 林地A1 | カマ、刈払機 | 1.0 | | | 1 | | | | | | | | | 1 | 1.0 | |
| | 林地A2 | | | | | | | | | | | | | | 0 | 0.0 | |
| 林地B | 林地B1 | | | | | | 1 | | | | | | | | 1 | 1.0 | |
| | 林地B2 | カマ、刈払機 | 1.0 | | | | 1 | | | | | | | | 1 | 1.0 | |
| | 林地B3 | | | | | 1 | | | | | | | | | 1 | 1.0 | |
| 疎林 | 疎林1 | カマ、刈払機 | 1.0 | | 1 | | 1 | | | | | | | | 2 | 2.0 | |
| | 疎林2 | | | 1 | | | 1 | | 1 | | | | | | 3 | 3.0 | |
| | 疎林3 | | | | 1 | | 1 | | 1 | | | | | | 3 | 3.0 | |
| 水辺(ため池) | 水辺(ため池 水域) | | — | 公園ボランティア+管理系イベントで実施 | | | | | | | | | | | 0 | — | |
| | 水辺(ため池陸域1) | カマ | | 公園ボランティア+管理系イベントで実施 | | | | | | | | | | | 0 | | |
| | 水辺(ため池陸域2) | | | 公園ボランティア+管理系イベントで実施 | | | | | | | | | | | 0 | | |
| 水辺(ハス田) | 水辺(ハス田 水域) | カマ | — | 公園ボランティア+管理系イベントで実施 | | | | | | | | | | | 0 | — | |
| | 水辺(ハス田陸域1) | カマ、刈払機 | 1.0 | | | | 1 | | 1 | 1 | | | 1 | | 2 | 2.0 | |
| | 水辺(ハス田陸域2) | | | | | 1 | | 1 | 1 | | | | | 4 | 4.0 | | |
| 園路 | 園路(中央部+縁) | 芝刈機(カマ) | 1.0 | | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | | | | | 1 | 7 | 7.0 |
| | 園路(ハッファ) | | | | 1 | | 1 | 1 | 1 | 1 | | | | | 5 | 5.0 | |
| | 園路(林内) | 刈払機 | 0.5 | | 1 | | 1 | 1 | 1 | 1 | | | | | 4 | 2.0 | |
| | 園路(ハス田) | | | 1 | | 1 | | 1 | 1 | 1 | | | | | 5 | 2.5 | |
| 外周林 | 外周林1 | カマ、刈払機 | 1.0 | 1 | 1 | | 1 | 1 | | 1 | | | | | 5 | 5.0 | |
| | 外周林2 | | | 区職員と協議の上適宜実施 | | | | | | | | | | | — | — | |
| | 外周林3 | | | 区職員と協議の上適宜実施 | | | | | | | | | | | — | — | |
| 浄化施設北側斜面 | 浄化施設北側斜面1 | カマ | 1.0 | | 1 | 1 | 1 | | | | | 1 | | | 4 | 4.0 | |
| | 浄化施設北側斜面2 | | | | 1 | 1 | | | | | 1 | | | | 3 | 3.0 | |
| | 浄化施設北側斜面3 | | | 1 | | 1 | | | | 1 | 1 | | | | 4 | 4.0 | |
| その他 | その他(駐車場横植え込み) | カマ | 0.5 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | | | | | 7 | 14.0 | |
| | その他(集会場側門植え込み) | | | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | | | | | 7 | 3.5 | |
| | | | | | | | | | | | | | | | 103.0 | | |

・外来生物の駆除

平成 21 年度より、区民協働型事業の一環として、来園者にアメリカザリガニの外来種としての問題を理解していただいたうえで、ザリガニの捕獲に協力してもらっています。

今年度は、年間で 4,578 匹のアメリカザリガニの駆除を行うことができました。昨年度(8,999 匹)に比べると半減していますが、ザリガニ釣り参加者は 3,937 人と、昨年度(4,058 人)に比べ多少の減少は認められるものの大きな違いはありません。ザリガニ釣りによる駆除を継続した結果、釣りで捕獲できる大きさの個体が大幅に減少していることが示唆されます。

ウシガエルについては、トラップによる成体の駆除、卵塊の駆除を実施しました。幼体の駆除については手網などを用いて適宜実施しました。今年度の捕獲数は幼体が 38 匹、成体が 119 匹となり、昨年度に比べて大きく減少しました。前年度に実施した駆除作業により越冬した幼体が少なくなったこと、

卵塊の駆除により今年度に孵化した幼体が少なかったことが要因と考えられます。人力で成体を捕獲するのは難しく、トラップによる捕獲は効率のいい駆除方法であると考えられます。卵塊駆除は現地職員により行われ、目視で卵塊を発見し手網で除去する方法で行われました。卵塊には多い場合で数万個の卵が含まれるため、非常に効率のいい駆除作業であるといえます。

・モニタリング調査

ビオトープ公園の環境がどのように遷移し、どのような生き物が定着するか、環境管理の効果測定として継続的なモニタリング調査を実施しました。適正な維持管理に生かすと共に、インタープリテーション活動を展開するための貴重な情報として利用することができました。

調査地 ①園内（ゾーン別）、②周辺緑地（大鷲神社）、③周辺水域（綾瀬川、毛長川、伝右川）

調査時期 H24年4月～H25年3月

調査内容 生物相調査 ビオトープ活動 before & after 調査、植物相調査、動物相調査、生物歴調査
 相対照度と気温調査
 水質調査 水温・DO・pH・透視度・全窒素・全リン・CODの測定

表-23 平成25年度モニタリング調査回数

| 調査項目 | | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 計 | |
|---------|-------------|------------|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|----|---|
| ビオトープ | 定点写真 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 12 | |
| 植物相 | 木本 | | | | | | | | 1 | | | | | 1 | |
| | 草本 | | 1 | | 1 | | 1 | | 1 | | 1 | | 1 | 6 | |
| | 草本植生 | | 1 | | 1 | | 1 | | 1 | | 1 | | 1 | 6 | |
| 動物相 | 鳥類 | | 1 | | 1 | | 1 | | 1 | | 1 | | 1 | 6 | |
| | 昆虫 | | 1 | | 1 | | 1 | | 1 | | 1 | | 1 | 6 | |
| | 哺乳類 | 日常業務内で適宜実施 | | | | | | | | | | | | | - |
| | 魚類 | | | | | | 1 | | | | | | | 1 | |
| | 両生類 | 日常業務内で適宜実施 | | | | | | | | | | | | | - |
| | 爬虫類 | 日常業務内で適宜実施 | | | | | | | | | | | | | - |
| | その他 | 日常業務内で適宜実施 | | | | | | | | | | | | | - |
| | 生物歴調査(100選) | 日常業務内で適宜実施 | | | | | | | | | | | | | - |
| 相対照度と気温 | | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 12 | |
| 水質 | 透視度 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 12 | |
| | 溶存酸素 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 12 | |
| | pH | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 12 | |
| | 全窒素 | | | 1 | | 1 | 1 | | 1 | | | | 1 | 5 | |
| | リン | | | 1 | | 1 | 1 | | 1 | | | | 1 | 5 | |
| | 水温 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 12 | |
| 周辺緑地 | 大鷲神社 | | 1 | | | 1 | | | 1 | | | | 1 | 4 | |
| 周辺水域 | 綾瀬、伝右、毛長 | | 1 | | | 1 | | | 1 | | | | 1 | 4 | |

・桑袋ビオトープ公園みどころ 100 選

一般来園者が興味をもつ動植物および、環境指標となりうる動植物 100 種（植物 35 種、動物 62 種、および霜柱・氷・真夏日など自然現象）を選定し、平成 23 年度から週ごとに記録をはじめました。生物ごとに他の年度と比較することが可能で、窓口対応など解説活動にも役立ててきました。調査結果については昨年度と比較して大きな変化はありませんでしたが、公園内の自然の変化を簡単に掌握できる貴重な情報となりました。ホームページへの掲載も開始し、広報活動に対しても役立っています。

6) 広報活動

「公園の認知度の低さ」が課題の一つである当公園では、より多くの区民に公園での活動を知っていただき、また来園のきっかけとするために、広報活動が重要となります。

ニュースレターなど印刷物による主に区内への情報発信、園外の様々なイベントでのPR活動、ホームページによる広域への情報発信、新聞・雑誌・TVなどメディアへの掲載につながる広報活動を行いました。

・印刷物による情報発信（ニュースレター、ポスター、チラシ）

昨年度から引き続き、ニュースレターを発行しイベント情報などを掲載しました。近隣小学校3校へは全児童へ配布したほか、区内の全住区センター、地域学習センターなど区内の各施設、隣接する草加市や八潮市の公共施設へ配布を行いました。

内容はA4表裏フルカラーで、表面にはイベントの実施情報、裏面には公園の自然紹介などを掲載しました。読みやすい紙面づくりを心掛け、写真やイラストなどを多用しました。「学校で配られたよ」「今月号の発行はいつ頃ですか？」など、子どもから大人まで楽しみにしている様子が伺えました。

また発展型イベントを中心にポスター・チラシを作成し、区庁舎アトリウムなどに掲示、配布を行いました。ニュースレターは月3,500部と発行部数に限りがあるため、より多くの方が目にする場所に掲示、配布することは、大きな広報効果があると考えています。

表一24 ニュースレター掲載内容

| 掲載項目 | | 内容 |
|------|-----------|---------------------------------------|
| 表 | イベント情報 | 発行月の導入型イベント、また発展型イベントの募集情報を記載。 |
| | 4コママンガ | ビオトープに関する内容で、楽しそうな雰囲気を出すよう表面に掲載しています。 |
| 裏 | 公園のみどころ紹介 | 発行前に見られた公園のとおきの自然を紹介しています。 |
| | イベントレポート | 公園で実施終了したイベントの様子を伝えています。 |
| | ボランティア日記 | ボランティア3期～4期の活動を紹介しています。 |

・園外でのPR活動

今年度は、しょうぶまつり（しょうぶ沼公園）、こどもフェスタ（花畑地域学習センター）、あだち自然体験デー（新田）、ふれあいまつり（花畑地域学習センター）、桜花住区まつり（桜花住区センター）、梅まつり（大谷田公園）に出展しました。ただし、毎年出展していた地球環境フェアが雨天で中止、梅まつりが午後から中止となりました。

しょうぶまつり、あだち自然体験デー（新田）ではあだち自然の遊び場（足立区生物園・荒川ビジターセンター・桑袋ビオトープ公園・都市農業公園）の自然紹介やイベント紹介をするとともに、各館のパンフレットを配布しました。

今後も積極的に参加してPR活動を行い、区民の方々に情報発信を行いたいと考えています。

表—25 出張PR先一覧

| 日にち | 出張PR先 | 場所 |
|------------------|-----------|------------|
| 6月8日、9日 | しょうぶまつり | しょうぶ沼公園 |
| 8月4日 | 子どもフェスタ | 花畑地域学習センター |
| 10月26日、27日（雨天中止） | 地球環境フェア | 足立区区庁舎 |
| 9月22日 | あだち自然体験デー | 新田 |
| 11月2日、3日 | ふれあいまつり | 花畑地域学習センター |
| 11月10日 | 桜花住区まつり | 桜花住区センター |
| 3月2日（午後は雨天中止） | 梅まつり | 大谷田公園 |

出展状況（一部）

○しょうぶまつり（しょうぶ沼公園）

実施日時：6月8日（土）、9日（日）10:00～16:00

パネルや生体、クラフトなどを展示し、公園サポーターの方々にお手伝いいただきながら公園紹介を行いました。生体展示やブラックボックスがお客様の目を引き、そこから園内の見どころやイベントなどの紹介をすることができました。前年よりも公園を知っている方が多いように感じられ、出張PRがよい機会になっていることを実感しました。

○ふれあいまつり（花畑地域学習センター）

実施日時：11月2日（土）、3日（祝）9:30～15:00

地域学習センターで開催されたふれあいまつりにブースを出展し、公園のPR活動及びドングリを使ったクラフト作りを行いました。来場者は幼児とその保護者が多く、当公園を知らない人も多かったため、いい公園PRの場となりました。

・区庁舎アトリウムでのポスター掲示

区庁舎アトリウムの入口掲示板にB1サイズのポスターの掲示を行いました。今年度は「つくってみよう！コウモリハウス」「足立の水辺再発見プロジェクト」「特別企画展示・消えゆく足立の生きもの展」「実はおいしい！？身近な外来種を食べよう」「ビオトープ講座」「ヒラタケのほだ木づくりに挑戦！」「公園管理ボランティア5期生募集」と、年間で7回掲示をしました。

区庁舎アトリウムでのポスター掲示は、多くの区民の方の目に触れるきっかけとなるため、集客に大きな効果があります。今後もこうした公共施設へのポスター掲示が可能か検討していきます。

・新聞、雑誌、TV、HPなどメディアへの掲載

公園の認知度を高めるために、新聞、雑誌、TV、HPなどのメディアで取り上げてもらうことに重点を置いた活動を行いました。地域情報誌やJCN足立などには、イベント情報告知や取材レポートの掲載をしていただきました（表—25）。

またイベント情報のみだけでなく「ビオトープ」や「区民協働」など公園の特色や取組を特集した雑誌などの掲載依頼なども増えてきました。

今年度は報道広報課への情報発信が手薄になり、昨年度と比べると広域メディアに取り上げられる機会が少なくなってしまいました。今後はより一層、報道広報課や地域メディアとの連携をはかり、地域・広域メディア共に取り上げていただけるよう、効果的なプレスリリース文の作成などを積極的に行います。

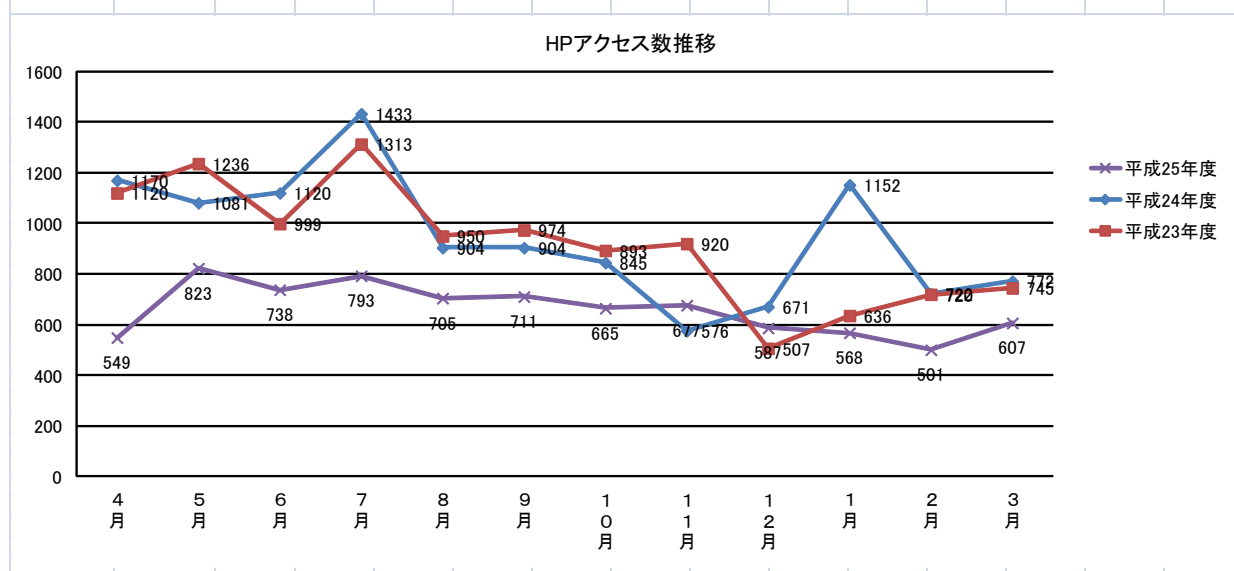
表一25 取材対応一覧

| 報道日 | 報道機関名 | 内容 |
|-----------|------------------------------|----------------------------------|
| 毎月10日、25日 | あだち広報 | イベント案内 |
| 毎月1日 | 花畑地域学習センター「フレンズ」 | イベント案内 |
| 毎月15日 | ニュースレター | イベント案内、公園の自然情報、ボランティア活動 |
| 毎月 | あだち学び情報館「まなぼー」(HP) | イベント案内 |
| 4月19日 | 子育て情報誌「まみたん」 | イベント案内「虫の赤ちゃん大集合！」 |
| 30日 | JCN足立「トピためっ！」 | イベント紹介「おもしろメガネで自然観察」 |
| 5月5日 | 足立朝日 情報スクランブル | イベント案内「自然のあそび屋台」「野鳥のごちそういただきます！」 |
| 6月20日 | キャンフオトサークル会員誌「moments」 | 公園紹介 |
| 7月1日 | ケーブルテレビ足立会員誌 JCNplus7月号「街暦」 | イベント紹介「作ってみよう！コウモリハウス」 |
| 5日 | 足立朝日 情報スクランブル | イベント案内「押し花のステンドウちわをつくろう」 |
| 8月1日 | ケーブルテレビ足立会員誌 JCNplus8月号「街暦」 | イベント紹介「調査キットで簡単！水調べ」 |
| 5日 | 足立朝日 情報スクランブル | イベント案内「調査キットで簡単！水調べ」 |
| 28日 | 読売新聞 都内版「ふらっと東京」 | イベント紹介「ため池のかい掘り体験」 |
| 9月1日 | ケーブルテレビ足立会員誌 JCNplus9月号「街暦」 | イベント紹介「ため池のかい掘り体験」 |
| 10月1日 | ケーブルテレビ足立会員誌 JCNplus10月号「街暦」 | イベント案内「どろんこハス掘り体験」 |
| 11月15日 | 子育て情報誌「まみたん」 | イベント案内「新春！ビオトープジャンボカルタ大会」 |
| 12月18日 | テレビ東京 「すなっぷ」 | ビオレンジャー活動紹介 |
| 1月1日 | ケーブルテレビ足立会員誌 JCNplus1月号「街暦」 | イベント案内「新春！ビオトープジャンボカルタ大会」 |
| 2月1日 | ケーブルテレビ足立会員誌 JCNplus2月号「街暦」 | イベント案内「ヒラタケのほだ木づくりに挑戦！」 |
| 3月5日 | 足立朝日 情報スクランブル | イベント案内「ツクシのもこもこブローチづくり」 |
| 14日 | タウン情報誌「ぱど」 | イベント案内「自然のあそび屋台」 |
| 17日 | JCN足立「トピためっ！」 | イベント紹介「ツクシのもこもこブローチづくり」 |
| 21日 | 毎日新聞 都内版 | 公園管理ボランティア5期生募集 説明会 |

・ホームページ

表ー26 HP アクセス数推移

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 |
|--------|------|------|------|------|-----|-----|-----|-----|-----|------|-----|-----|-------|
| 平成23年度 | 1120 | 1236 | 999 | 1313 | 950 | 974 | 893 | 920 | 507 | 636 | 720 | 745 | 11013 |
| 平成24年度 | 1170 | 1081 | 1120 | 1433 | 904 | 904 | 845 | 576 | 671 | 1152 | 722 | 772 | 11350 |
| 平成25年度 | 549 | 823 | 738 | 793 | 705 | 711 | 665 | 677 | 587 | 568 | 501 | 607 | 7924 |



今年度はHPのアクセス数が過去2年間と比較して約2,000件減少していますが、それはHPアクセス数のカウントの方法が変更したことによると思われます。

コンテンツとしては、「イベント情報」や「ボランティア活動報告」を毎月更新し、自然の見どころを紹介する「桑袋ナウ」を週1回更新しました。それ以外にも、不定期に「トピックス」のコーナーには、特にその時期の自然のみどころとなるものや、HP閲覧者の来園につながりそうな情報を掲載しました。

また新たに団体利用の促進に向け、対応時に利用するスライドや自然発見ビンゴを掲載し、閲覧者に情報が伝わるように取り組みました。

今後もインターネットの普及に伴って、HPの情報の重要性は高まると考えられます。同時に携帯電話でのインターネット利用者の増加などの変化も生まれています。これらの動きに対応すると同時に、HP特有の情報更新の容易さ、迅速性などを踏まえたページ作りを検討します。

・団体向けプログラムのダウンロードコーナーへの掲載

団体利用者向けに、団体対応時に使用する「公園紹介スライド」と、主な実施プログラムである「自然発見ビンゴ」を掲載しました。自然発見ビンゴは団体利用者が多い夏・秋・冬の各季節に合った内容のものを閲覧できるようにしました。これにより、団体利用を検討する際、より当公園に対するイメージを持っていただけるようになると思われます。

